

各種学力調査結果と授業改善のポイント

授業改善の *Point'21*

全国学力・学習状況調査 山梨県学力把握調査 山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査



山梨県総合教育センター

令和3年
10月

全国学力・学習状況調査

P.05 概要

P.11 参考資料

P.19 集計結果及び授業改善のポイント



目次



山梨県学力把握調査

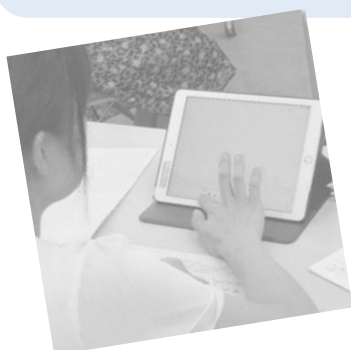
P.37 概要

P.39 集計結果及び
授業改善のポイント

山梨県公立小中学校 教育課程実施状況調査

P.59 概要

P.61 集計結果及び授業改善のポイント



センターから

調査結果を踏まえた 授業改善の取組

1. 課題のある設問に着目する

- ①全国平均や県平均との差が大きい設問(5ポイント以上差が開いているもの)、正答率の低い設問、無解答率の高い設問に着目します。



2. 反応率の高い誤答に着目する

- ②解答類型の反応率から誤答の状況(児童生徒はどこでつまづいているのか)をつかみます。

3. 誤答から児童生徒の実態をつかむ

- ③誤答の原因(どこに課題があるのか)を考えます。

4. 児童生徒の実態を踏まえて 授業をつくる

- ④対象学年だけでなく、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。
- ⑤本冊子「授業改善のPoint'21」やパンフレット(右)、国の調査資料(解説資料、報告書、授業アイデア例等)を参考にして、指導の改善・充実を図りましょう。





全国学力・学習状況調査

授業改善 の **Point'21**

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○実施日 令和3年5月27日（木）

○目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

ア) 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では、上記ア)とイ)を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査及び学校に対する調査

○対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

○県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合 計
学校数 (分校含む)	163校	[1校]	85校	[3校]	248校
児童生徒数	6,097人		6,054人		12,151人

2 全体についてのコメント

- ①全体的に見て、全国平均との差が±5ポイント以内であり、全国平均と概ね同等の結果である。 (全国の平均正答数との比較：上回る☆ 同等－ 下回る★)

令和3年度 本県の調査結果(公立) 【悉皆】				
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県) 問	8.8/14	10.8/16	9.2/14	9.1/16
平均正答数(全国) 問	9.1/14	11.2/16	9.0/14	9.1/16
正答数の差	★	★	☆	－
平均正答率(本県) %	63	68	66	57
平均正答率(全国) %	64.7	70.2	64.6	57.2

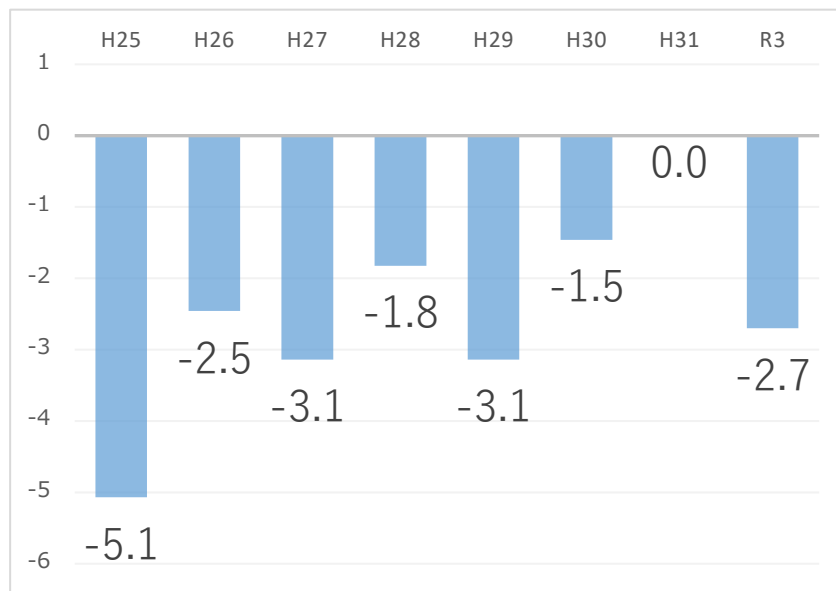
また、前回（平成31年度）調査における全国平均との差も同様に±5ポイント以内であり、前回調査と同等の結果である。

平成31年度(令和元年度) 本県の調査結果(公立) 【悉皆】				
	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数(本県) 問	8.7/14	9.3/14	7.5/10	9.5/16
平均正答数(全国) 問	8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16
正答数の差	★	－	☆	★
平均正答率(本県) %	62	66	75	60
平均正答率(全国) %	63.8	66.6	72.8	59.8

- ②経年的に見て、改善の傾向が読み取れる。

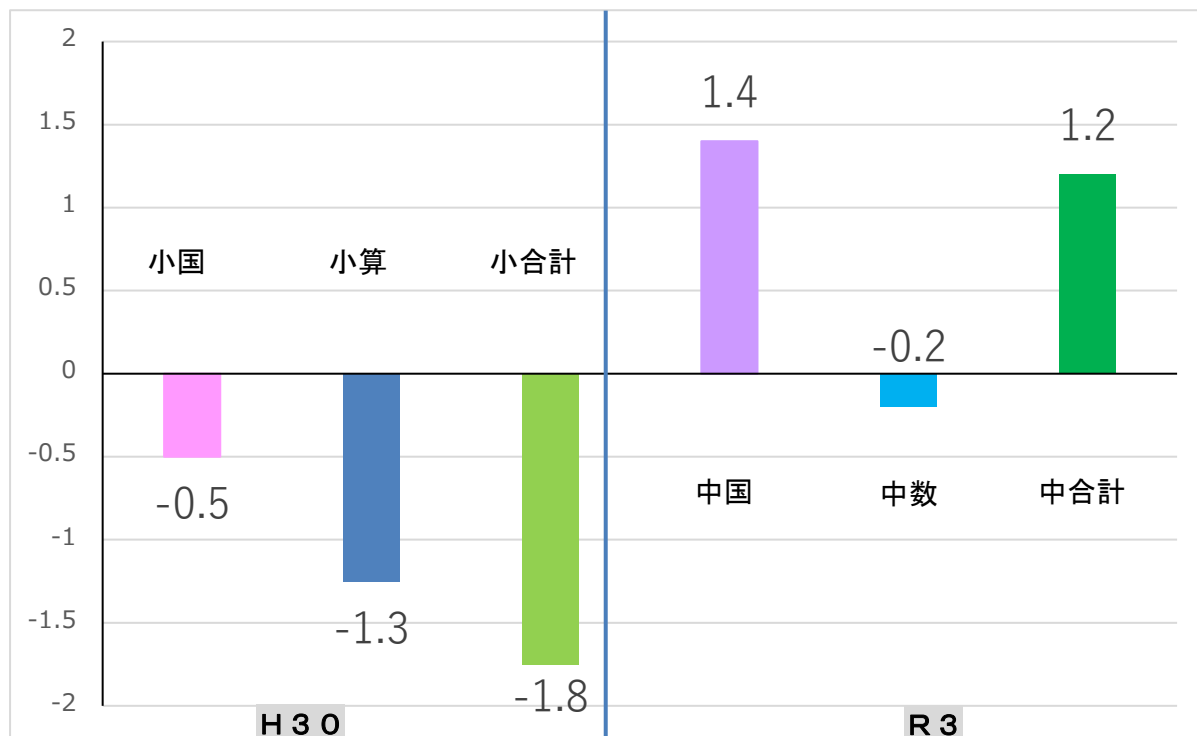
- 平成25年度には全国平均から-5.1ポイントの差があったが、本年度は-2.7ポイントであり、差の増減はあるものの、改善の傾向にあるといえる。(図1)

図1 本県平均正答率と全国平均正答率との差の合計の推移



- ③同一学年生徒（今年度の中学３年生が小学校６年時）の比較では、3.0 ポイント上昇している。（小学校６年時-1.8 から、本年度+1.2 に全国平均を上回るまで、伸びを示している。）（図２）

図２ 小学校６年（H３０）と中学校３年（R３）における全国平均正答率との差



- ④質問紙調査においては、これまで肯定的な回答が多かった、学習への興味・関心・規範意識・自己有用感に関する項目について、全国平均と比べて引き続き高い傾向にある。

<児童生徒質問紙>

- ・児童生徒共通して、学習に対する興味関心が、全国平均を上回っている。
 - 小 2.4 ポイント (山梨 85.7% 全国 83.3%)
 - 中 1.6 ポイント (山梨 78.3% 全国 76.7%)
- ・児童生徒共通して、「人が困っている時には進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」等の規範意識の項目で、全国平均を上回っている。
 - 小 1.8 ポイント (山梨 95.5% 全国 93.7%)
 - 中 2.0 ポイント (山梨 95.1% 全国 93.1%)
- ・児童生徒共通して、「自分にはよいところがある」「将来の目標を持っている」等の自己有用感などの項目で、全国平均を上回っている。
 - 小 3.2 ポイント (山梨 81.8% 全国 78.6%)
 - 中 4.4 ポイント (山梨 76.8% 全国 72.4%)

- ・児童生徒共通して、生活習慣・学習習慣に関する項目についても、全国平均を上回っている。
 小 3.7 ポイント(山梨 88.8% 全国 85.1%)
 中 2.7 ポイント(山梨 84.9% 全国 82.2%)
- ・児童生徒共通して、学習時の ICT の活用に関する項目については、全国を下回っており、ICT 活用促進に取り組む必要がある。
 小 -8.1 ポイント(山梨 48.9% 全国 57.0%)
 中 -10.6 ポイント(山梨 41.3% 全国 51.9%)

<学校質問紙>

- ・小学校中学校共通して、授業改善に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 5.3 ポイント(山梨 90.0% 全国 84.7%)
 中 4.2 ポイント(山梨 85.5% 全国 81.3%)
- ・小学校中学校共通して、生徒指導に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 3.1 ポイント(山梨 95.9% 全国 92.8%)
 中 1.1 ポイント(山梨 97.9% 全国 96.8%)
- ・小学校中学校共通して、教職員の資質能力の向上に関する項目で、全国平均を上回っている。
 小 4.2 ポイント(山梨 94.5% 全国 90.3%)
 中 7.0 ポイント(山梨 94.9% 全国 87.9%)
- ・小学校中学校共通して、地域と連携した活動に関する項目で、全国平均を上回っているが、コミュニティ・スクール等の設置に係る項目では、全国平均を下回っており、今後も継続して取り組む必要がある。
 小 -2.0 ポイント(山梨 72.7% 全国 74.7%)
 中 -1.7 ポイント(山梨 79.7% 全国 81.4%)

- ⑤同一学年生徒（中学3年生が小学校6年生時）の正答率の伸びについては、児童生徒質問紙において、学習への興味関心・規範意識・自己有用感に関する項目について、肯定的な回答の割合が高いことが、要因の一つと捉えられる。

山梨県の同一児童生徒の小学校6年生時から中学校3年生時の全国学力学習状況調査における正答率の比較においては、過去の調査を含め、平均正答率の伸びが確認できる。同時に、質問紙調査においても、自己有用感に関する項目は全国平均を上回る傾向が続いている。

文部科学省が公表した過去の調査における平均正答率と質問紙のクロス集計では「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られたとしている。

本県でも、児童生徒の自己有用感が育まれることにより、小学校から中学校に向けて学力が伸びていく傾向があると捉えられる。

令和3年度 山梨県指導重点 ◇学級経営・ホームルーム経営の充実◇

- 児童生徒が所属感、自己有用感をもつことができるよう、集団としての意見をまとめたり、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容等を決定したりする活動に取り組み、一人一人のよさや可能性を生かすように努める。

3. 令和3年度の実施

1 学力向上総合対策事業の推進

- 学力向上推進事業（学力向上対策会議、学力向上キャラバン）
- 山梨県学力把握調査事業
- 学力向上支援スタッフ配置事業、スクール・サポート・スタッフ配置事業
- 少人数教育推進事業
- 英語教育改善プラン推進事業
- 小学校プログラミング教育推進事業
- 深い学びの実現に向けた ICT 活用推進事業
- 情報社会に生きる読解力・記述力育成事業
- 若手教員グローアップ事業
- 家庭学習習慣化促進事業
- 外国人児童生徒等支援事業

2 やまなしスタンダードの推進

- ・ 「やまなしスタンダード～授業づくりの7つの視点～」のもと、県全体での授業づくりの取組の推進

3 地域の実態に応じた取組の実施

- ・ 地域学力向上推進幹を中心とした、各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策の推進

4 県教委による採点および採点講習動画配信の実施

- ・ 小・中学校の答案を総合教育センター指導主事（小・中・高）が採点し、今年度の傾向を分析
- ・ 自校採点の方法等に関する説明動画を小・中ともに配信（各校の課題把握のための自校採点を促し、課題克服に向けた早期の授業改善につなぐ）

5 各種説明会を通じた早期の授業改善の推進

- ・授業改善のための組織的な対応を促すため、学力調査を踏まえた授業改善のための説明会（小：6月29日、中：7月1日）を開催
- ・誤答から考えられる課題と、課題克服に向けた授業改善のポイントをまとめた冊子の配付、早期の授業改善を促進

6 「学力向上フォーラム2021」の開催

- ・大学の教授を講師に招聘して、「主体的・対話的で深い学び」を通じた学力向上の在り方についての講演会
- ・全国学力・学習状況調査より明らかになった課題、学校での学習と学力向上対策等についての指導主事による説明
- ・学級経営の充実に向けた取組に関する講演、トークセッション

4. 結果を踏まえた今後の取組

○指導主事による学校訪問

- ・市町村、学校毎の状況を把握し、指導改善の取組の周知・徹底を図る。

○分析結果を反映させた研修会や学習会の実施

- ・各種研修会の中で、分析結果をもとにした授業改善の取組を説明する。
- ・各校からの要請で行う学習会にて、指導主事が授業改善に向けた指導を行う。

○「結果と授業改善のポイント」の冊子の作成・配付と説明会の実施

- ・授業改善に向けた取組を推進するため、全国学力・学習状況調査及び山梨県学力把握調査等の調査結果、及び山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査を踏まえた取組について、小学校4教科(国・算・社・理)、中学校5教科(国、数、英、社、理)で作成し、各校に配付する。
- ・2学期以降の授業改善につなげるために、作成した冊子をもとに説明会を実施する。
(10月上旬予定)

○「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・各種学力調査の結果を受け、課題がある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、確実な学力の定着を目指す。(10月中に配信)

1. 各教科の概要

以下の3つの視点から分析を行った。

- 正 平均正答率が高いまたは低い主な設問
- 差 全国の平均正答率と差が見られる主な設問
- 経 経年比較で成果や課題が見られる主な設問

小学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		平均正答率（％）			選定理由
			山梨県	全国		
国語	○	津田梅子についての【スピーチ】の練習の の部分で話す内容として適切なものを選択する〔 1 三〕	80.0	81.0	正	平均正答率が高い。新学習指導要領に示された内容についてもできている。
	△	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く〔 2 四〕	27.7	29.7	正 差	平均正答率が低く、全国平均を2ポイント下回っている。
算数	○	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ〔3（1）〕	95.2	95.8	正	平均正答率が高い。
	△	直角三角形の面積を求める式と答えを書く〔 2 （1）〕	49.0	55.1	正 差	平均正答率が低く、全国平均を6.1ポイント下回っている。

中学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		平均正答率（％）			選定理由
			山梨県	全国		
国語	○	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する〔 1 二〕	93.6	92.5	正	平均正答率が高い。
	△	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く〔 3 四〕	20.2	20.5	正	平均正答率が低い。

数 学	○	反復横とびの記録の中央値を 求める〔5〕	86.6	84.5	正 差	平均正答率が高く、全国 平均を2.1ポイント上回 っている。
	△	「日照時間が6時間以上の日 は、6時間未満の日より気温 差が大きい傾向にある」と主 張できる理由を、グラフの特 徴を基に説明する「〔8 (3)〕」	11.1	11.1	正 経	平均正答率が低く、経年 的にも課題が見られる。 〔H29 B〔5〕(3) 県 14.3% 全国 17.6%〕

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

【質問内容の番号は各質問紙の設問番号を表す】

(1) 児童生徒質問紙

※肯定的な回答が高い内容

＜上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差＞

＜数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す＞

質問項目	小学校	中学校
①学習に関する興味関心：国語と算数（数学）8項目の平均	85.7% +2.4	78.3% +1.6
①-1 国語への関心：4項目の平均	85.1% +3.2	83.6% +3.3
43 国語の勉強は好きですか	62.6% +4.2	64.3% +3.5
44 国語の勉強は大切だと思いますか	95.3% +2.1	93.8% +2.2
45 国語の授業の内容はよく分かりますか	89.0% +4.8	84.9% +4.8
46 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立 つと思いますか	93.5% +1.7	91.4% +2.7
①-2 算数（数学）への関心：4項目の平均	86.3% +1.6	73.0% -0.1
52 算数（数学）の勉強は好きですか	70.0% +2.2	57.5% -1.6
53 算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	94.4% +0.6	85.1% +1.0
54 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	86.7% +2.1	74.8% +0.2
55 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき に役に立つと思いますか	94.2% +1.6	74.7% +0.1

②規範意識：3 項目の平均	95.5% +1.8	95.1% +2.0
10 人が困っているときは、進んで助けていますか	92.2% +3.5	92.1% +3.6
11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8% +1.0	97.4% +1.5
12 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5% +1.0	95.8% +0.8
③自己有用感：2 項目の平均	81.8% +3.2	76.8% +4.4
6 自分には、よいところがあると思いますか	80.0% +3.1	80.8% +4.6
7 将来の夢や目標を持っていますか	83.6% +3.3	72.8% +4.2
④生活習慣、学習習慣：4 項目の平均	88.8% +3.7	84.9% +2.7
1 朝食を毎日食べていますか	96.9% +2.0	93.9% +1.1
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.7% +4.5	82.6% +2.8
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.6% +3.2	94.1% +1.4
17 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	79.0% +5.0	69.1% +5.6

※全国平均を下回る主な内容 <上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差>
 <数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す>

質問項目	小学校	中学校
⑤授業での I C T活用：2 項目の平均	48.9% -8.1	41.3% -10.6
26 5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどの I C T活用機器をどの程度使用しましたか【月1回以上】	68.4% -6.6	59.8% -9.1
27 あなたは学校で、コンピュータなどの I C T機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか【週1回以上】	29.3% -9.7	22.7% -12.1

(2) 学校質問紙

※肯定的な回答が高い内容

＜上 段：本県回答率 下 段：全国平均との差＞

＜数値は肯定的な回答をした学校の割合を表す＞

質問項目	小学校	中学校
①授業改善：3 項目の平均	90.0% +5.3	85.5% +4.2
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	96.4% +11.8	97.6% +13.1
36 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	89.6% +1.5	85.9% -1.0
37 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	84.1% +2.7	72.9% +0.3
②生徒指導：5 項目の平均	95.9% +3.1	97.9% +1.1
7 調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	92.0% +3.5	96.4% +0.4
8 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	90.8% +5.5	98.8% +0.9
9 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	97.5% +2.9	96.5% +3.8
10 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか	100% +3.1	98.8% ±0
11 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	99.4% +0.7	98.9% +0.3
③資質能力：8 項目の平均	94.5% +4.2	94.9% +7.0
17 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	99.4% +0.7	97.6% -0.4
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	98.8% +0.3	98.8% +1.6
23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	98.2% +0.1	100% +6.1
24 児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を	84.1% +1.7	84.7% +7.0

行っていますか		
25 (小) 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか (中) 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	92.6% +16.7	97.7% +22.1
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	96.4% +11.8	97.6% +13.1
27 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	98.2% +1.8	96.5% -0.3
28 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	88.4% +1.0	85.9% +6.8

※児童生徒質問紙・学校質問紙において、ともに課題がみられる項目

質問項目	小学校	中学校
①地域連携：4項目の平均	72.7% -2.0	79.7% -1.7
80 職場見学や職場体験活動を行っていますか【いる】 【学校質問紙】	49.1% +4.9	94.1% +4.5
81 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか【学校質問紙】	86.5% +0.8	91.8% +4.6
82 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか【学校質問紙】	97.6% +1.9	87.1% -1.8
83 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(82)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか【学校質問紙】	57.7% -15.6	45.9% -17.4
参考：今住んでいる地域の行事に参加していますか 【児童・生徒質問紙】	71.1% +13.0	60.3% +16.6

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業と児童生徒の学習状況・学校の取組に関する質問

【学校質問紙】

＜上 段：本県回答率

下 段：全国平均との差＞

質問項目	小学校	中学校
臨時休業期間中の家庭学習の内容		
①学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ①教科書に基づく学習内容の指示	90.8% -2.6	90.6% -1.9
②学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ②学校が作成したプリント等を配布	98.8% +3.1	96.5% +1.2
③学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑤学校が作成した学習動画等を活用した学習	26.4% +3.2	31.8% +5.1
④学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑧都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習	60.2% +17.1	52.9% +16.4
⑤学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑥同時双方向型オンライン指導を通じた学習	5.0% -0.7	7.1% -0.3
学習状況や生活状況の把握手段(抜粋)		
①学校の全部を休業としていた期間中、調査対象児童の学習状況や生活状況についてどのような手段で把握していましたか(複数選択可)		
1. 登校日を設定して学校で直接行った	66.9% +7.6	74.1% +4.1
2. 家庭訪問により行った	40.5% -0.2	49.4% +3.0
3. 電話やFAXにより行った	83.4% +10.9	78.8% +7.1
4. 郵便により行った	2.5% -3.8	9.4% +1.2
5. 電子メールやSNSを使って行った	15.3% -2.1	12.9% -2.8
6. オンライン学習支援プラットフォーム・学習管理システム等を活用して行った	3.7% -1.1	1.2% -6.3
7. 同時双方向型オンラインシステムを活用して行った	2.5% -3.4	9.4% +1.8
8. 児童が利用可能な相談窓口を周知・設置して行った	5.5% -0.4	8.2% +0.3

【児童生徒質問紙】「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

＜上 段：本県回答率

下 段：全国平均との差＞

質問項目	小学校	中学校
①新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	59.6% +4.4	66.3% +3.5
②新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	70.1% +5.5	39.9% +2.3
③新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	70.0% +6.9	51.5% +3.1
④新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択） …抜粋		
・ 家族に聞いた	86.0% +7.2	49.1% +4.8
・ 自分で調べた	70.0% +7.6	67.7% +6.1

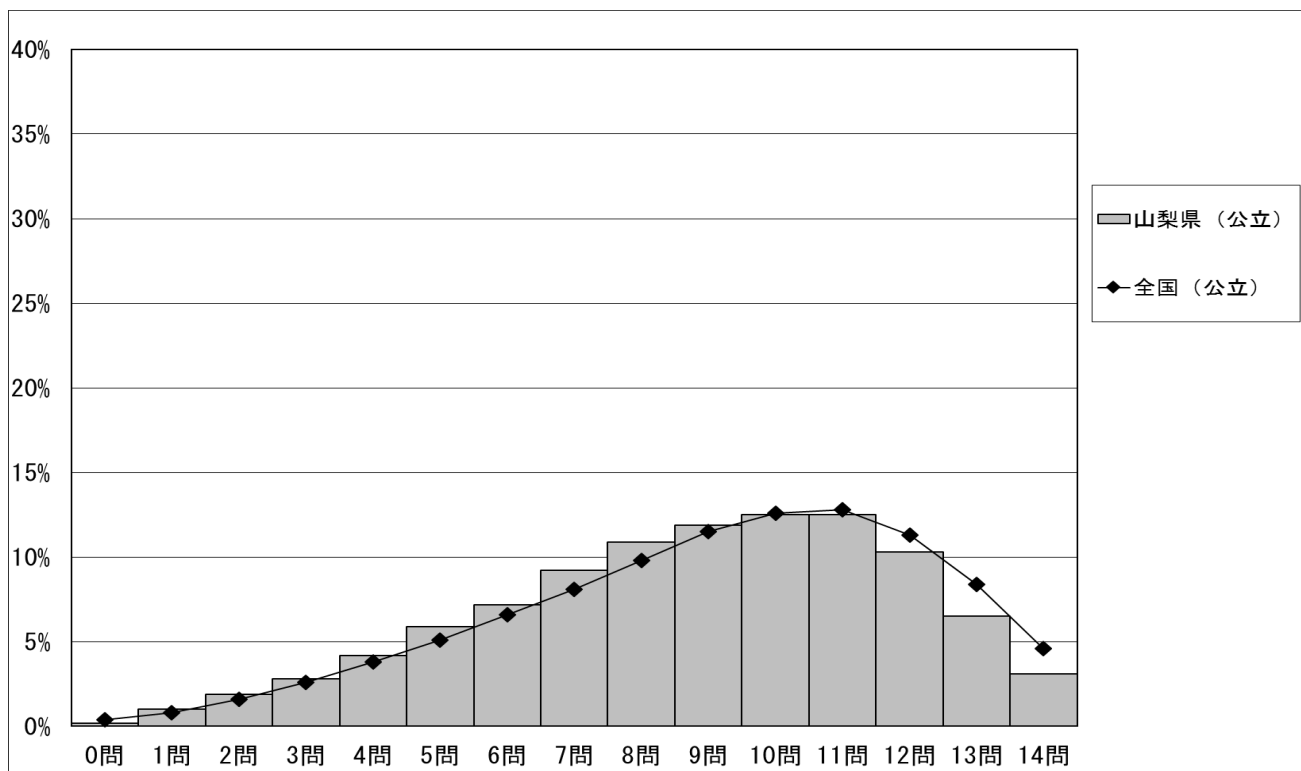


集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,097	8.8 /14	63	9.0	3.0
全国（公立）	993,975	9.1 /14	64.7	9.0	3.1

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				山梨県（公立）	全国（公立）
全体			14	63	64.7
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	65.0	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	77.1	77.8
		B 書くこと	2	58.7	60.7
		C 読むこと	3	45.4	47.2
評価の観点		知識・技能	6	65.0	68.3
		思考・判断・表現	8	60.6	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	70.0	71.7
		短答式	3	66.8	70.6
		記述式	3	38.3	40.2

正答数分布グラフ





小6国語



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する				5・6イ				○		○			78.2	77.5	0.3	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する				5・6ウ				○		○			73.0	74.9	0.6	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の「 <u> </u> 」の部分で話す内容として適切なものを選択する				5・6ウ				○		○			80.0	81.0	0.3	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する						5・6ア		○		○			76.5	77.6	0.3	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	5・6オ							○		○			86.5	87.5	0.2	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く						5・6ウ		○			○		32.0	34.4	3.8	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く						3・4ウ		○			○		27.7	29.7	4.9	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する				5・6イ				○		○			62.1	64.8	2.0	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の「 <u> </u> 」部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す				5・6ウ				○			○		55.4	56.6	9.3	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の「 <u> </u> 」部アを、漢字を使って書き直す(ころがつている)	5・6エ							○			○		78.1	78.3	8.4	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「 <u> </u> 」部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	5・6エ							○			○		47.0	54.4	14.7	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「 <u> </u> 」部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	5・6エ							○			○		75.2	79.0	6.7	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「 <u> </u> 」部イで、 <u> </u> 部「残されています」の主語として適切なものを選択する	3・4カ							○		○			64.9	67.0	3.3	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「 <u> </u> 」部オで、 <u> </u> 部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	3・4カ							○		○			38.5	43.6	3.7	4.1



課題の見られる設問

2 四

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

面ファスナー

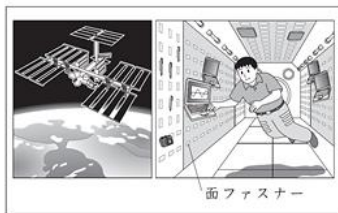
面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の曲がったかぎ状のトゲがおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

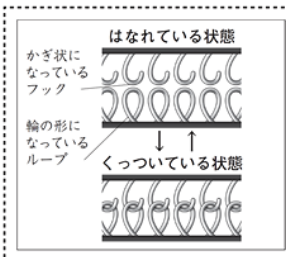
一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていきました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通っていたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあい調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるように使われているのです。一人の気つきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる利便さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーの仕組み



解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%)
2 段目：全 国(公立)の反応率(%)

問題の概要	解答類型							
	1	2	3	4	5	6	9 9	無解答
面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	27.7	0.1	0.0	8.3	46.5	11.0	1.5	4.9
	29.7	0.1	0.0	8.2	44.6	10.3	1.6	5.5

分析と課題

類型5の「国際宇宙ステーションでの使われ方について書いているが、面ファスナーのよさを取り上げて書いていない」解答が 46.5%と半数近くを占めている。「面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているか」という問いについては意識できたが、国際宇宙ステーションで使うことを可能にしている理由として、面ファスナーのよさを文章から見付けて書くことができていないと考えられる。

類型6の「【資料】から言葉や文を取り上げて書いているが、面ファスナーのよさも、国際宇宙ステーションでの使われ方も書いていない」解答については、「相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしている」ことを捉えることができていないと考えられる。

こうしたことから、『問われていることや条件に合わせて(目的を意識して)、必要な情報(中心となる語や文)を見付け、要約すること』に課題があると考えられる。

四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、七十文字以内にとめて書くこと。



4

学年の学習で...

「要約する」

説明的な文章を読む学習の中で、文章の内容を説明するために端的にまとめる場面を設定します。調査問題の【資料】を活用して、要約する「目的」を変えて取り組んでみましょう。



国際宇宙ステーションの中で、面ファスナーはどんなことに使われていますか。

授業改善の POINT

国際宇宙ステーションの中で、面ファスナーが活躍するのは、面ファスナーにどんなよさがあるからですか。

①面ファスナーは、何をヒントに開発されたのか、説明しましょう。

②面ファスナーが、日本で広く知られるようになったきっかけを説明しましょう。

③面ファスナーの広がりについて、理由づけをしながら説明しましょう。

問われていることは何かな？

何をまとめるのかな？

キーワード(重要な語や文)はどれかな？

どのまとまりに書かれているかな？



問われていることやまとめる条件を意識する
要約する目的を確かめる

キーワードや箇条書き等で端的に書く
必要な情報を選び出す

まとまりを意識して丁寧に読む
必要な情報が書かれているまとまりをさがす

*教科書の中では、「重要な語や文を選び出すこと」は2年生から、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけること」は3年生から学習しています。学習内容の積み上げを意識して取り組んでいきましょう。

授業改善の POINT

5

学年の学習で...

目的に応じて 「情報を取捨選択する⇒整理する⇒まとめる」

解答例を用いて考え、目的に応じた解答かどうかを説明しあう場面を設定します。

国際宇宙ステーションの中では、ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物を固定するために面ファスナーが使われている。(67字)

解答例が目的や条件に応じたものになっているか、気付いたことを挙げてみましょう。

国際宇宙ステーションでの使われ方が、具体的に書かれているけれど、この文章だと「面ファスナーのよさ」には触れられていないよね？



面ファスナーには、かん単にくっつけたりはがしたりできるよさや、布のようにじゅうなん性があるというよさがあるので、宇宙でつかわれている。(67字)

この説明だと、「どんな使われ方ですか」という問いに答える形になっていない気がするけれど、どうかな？



* 児童同士で確認する *

- ◇情報を取り上げるために着目したところは適しているか
- ◇目的に沿って情報を取り上げているか
- ◇文章が適した表現になっているか(主語と述語・修飾と被修飾・問いと答えの関係等)

*それぞれの考えを説明しあうことは、児童が内容の理解を深めていくことにつながります。
*考えの交流を通して児童が文章を整える経験を重ねられるようにしましょう。また、まわりの友だちと考えを出し合ってよりよいものにしていくことのよさも実感することができるようにならう。

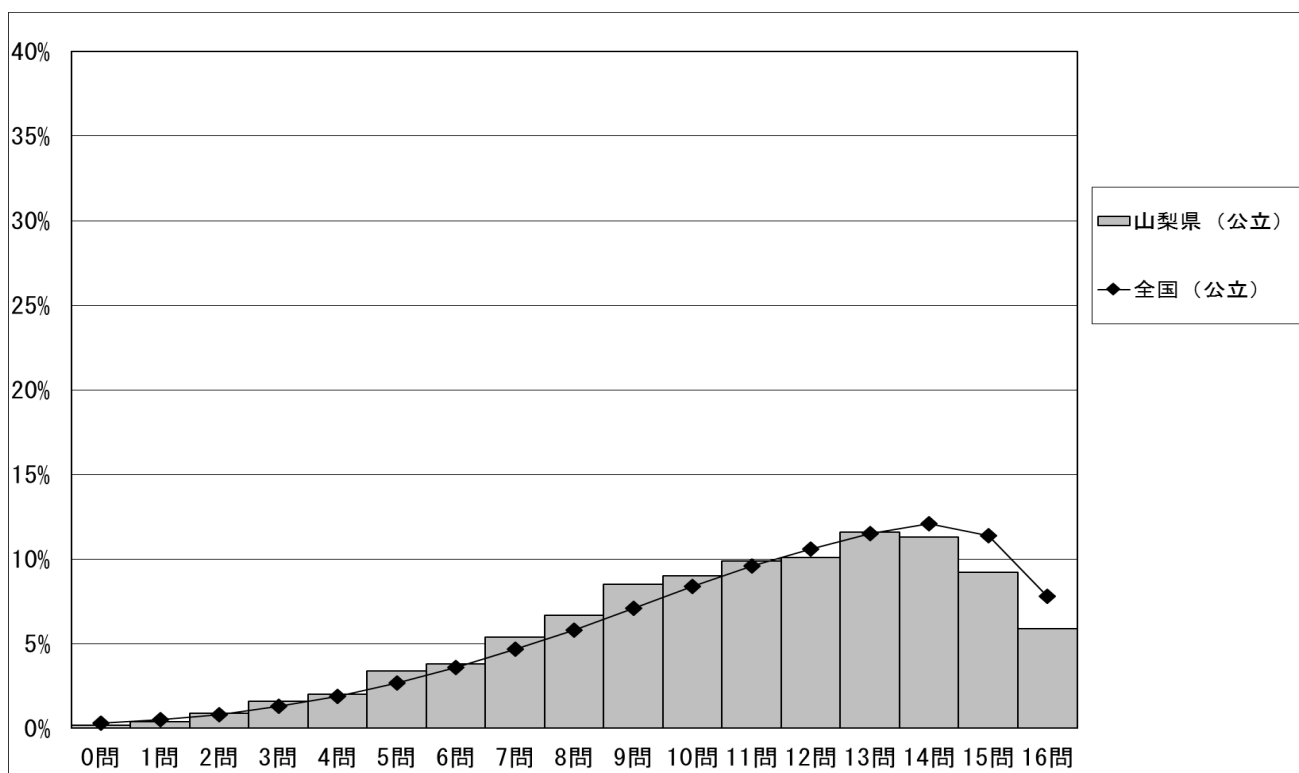


集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,097	10.8 / 16	68	11.0	3.5
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		16	68	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	60.3	63.1
	B 図形	3	54.9	57.9
	C 測定	3	73.1	74.8
	C 変化と関係	3	73.2	75.9
	D データの活用	5	74.1	76.0
評価の観点	知識・技能	9	71.5	74.1
	思考・判断・表現	7	63.0	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	74.1	76.0
	短答式	6	72.8	75.8
	記述式	4	50.8	53.0

正答数分布グラフ





小6算数



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	1(2) ア(イ) 3(2) ア(イ) ※			2(1) ア(ア)			○				○	59.3	62.5	1.2	1.7
1(2)	500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く					5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		○			○		84.9	86.7	1.8	1.7
1(3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ					5(2) ア(ア)	○			○			50.8	55.8	1.6	1.4
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く				3(2) ア(イ)		○				○		88.8	89.2	0.7	0.7
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く					5(2) ア(ア)	○				○		83.9	85.1	1.0	1.5
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く		5(3) ア(ア)				○				○		49.0	55.1	1.0	1.6
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ		5(3) ア(ア)	1(1) ア(イ)			○			○			71.2	72.5	1.0	1.0
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く		5(3) ア(ア) ※					○				○	44.4	46.0	3.5	4.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ					3(1) ア(イ)	○			○			95.2	95.8	0.2	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ					3(1) ア(イ)	○			○			90.3	90.7	0.3	0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ					4(1) ア(ア)	○			○			65.0	67.5	1.4	1.7
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く					5(1) ア(ア) ※	○					○	48.1	52.0	9.1	10.3
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ					5(1) ア(イ) ※	○			○			72.0	73.9	1.1	1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	3(4) ア(ア) イ(イ)						○			○		81.3	83.0	1.5	1.7
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	4(4) ア(エ)					○				○		49.3	55.5	1.5	2.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	4(4) ア(ア) ※						○				○	51.2	51.5	8.9	10.3



課題の見られる設問

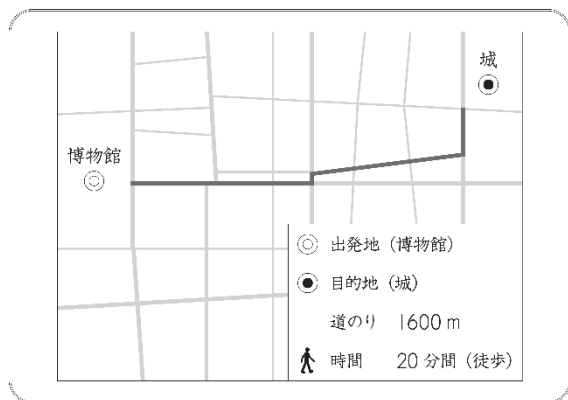
1 (3)

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが

城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで 歩いた道のりと時間を表しています。

調べました。



道のりと時間

	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$

㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



博物館から城までは 1600 m で、20 分間かかるようです。



私たちが歩く速さと同じくらいの速さなのでしょうか。



私たちは、500 m を歩くのに 7 分間かかりましたよ。

1 | 1 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、㊦のほうが速い。

2 | 1 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、㊧のほうが速い。

3 | 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、㊦のほうが速い。

4 | 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、㊧のほうが速い。

解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%)、2 段目：全国(公立)の反応率(%)

解答類型					
1	2	3	4	9 9	無解答
50.8	25.5	7.7	10.5	3.9	1.6
55.8	22.9	6.9	9.5	3.5	1.4

分析と課題

速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。

正答は、1 である。

2 と解答(解答類型 2)の反応率は 25.5 % である。示された除法の式が 1 分間あたりの道のりを求めるための式であることは理解しているが、求めた商を比べたとき、数値が小さい方が速いと捉えていると考えられる。

3 と解答(解答類型 3)または、4 と解答(解答類型 4)の反応率を合わせると、18.2 % である。示された除法の式が 1 分間あたりの道のりを求めるための式であることを理解していないと考えられる。

平成 25 年度、平成 30 年度に関連した問題が出題されており、「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること」が課題として指摘されている。

場面を捉えて立式することや答えの意味を解釈する場を設けることが大切である。



小6算数



参考 1 (5)

(5) たけるさんたちは、図書館から駅にもどるとき、バスに乗ることにしました。



分速 540 m で走るバスが、2700 m を進むのに何分間かかるかを求める式を書きましょう。

ただし、計算の答えを書く必要はありません。

正答は、 $2700 \div 540$ であり、正答率は 83.0% (全国 85.1%) である。速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことは概ねできている。一方、(3) の正答率は 50.8% (全国 55.8%) である。(5) は形式的に立式できるため、(3) と比べて正答率が高いことが考えられる。

公式によって求めるだけでなく、数量の関係を捉えて式に表すことが重要である。

クロス集計 (全国の結果) より

1 (3) (5) とともに正答の児童の割合は、51.2% である。これは、1 (3) で正答の児童の 91.4% に当たる。除法の式と商の意味がわかっている児童は、式に表すこともできていると考えられる。

授業改善の
POINT

数量の関係を捉えて立式する指導を充実しよう

8 人に、4L のジュースを等しく分けます。1 人分は何 L ですか。

T: 場面を図に表しましょう。

C: 4L を 8 人に分けたよ。

C: 1 人分は…。

C: 8 人で 4L のとき、1 人分は □ L …。

C: どの図も、1 人分の大きさを求めているなあ。

C: 1 人分を求めるから人数を 1 としよう。

C: わり算は、わる数を 1 としたとき、わられる数がいくつに当たるかを求める計算でしたね。

C: だから人数の 8 でわれば いいね。式は $4 \div 8$ です。



学年の学習で…

計算結果から問題場면을振り返る指導を充実しよう

	道のり (m)	時間 (分)	どちらが速い?
㊦	1600	20	㊦ $1600 \div 20 = 80$
㊧	500	7	㊧ $500 \div 7 = 71.4$

T: ㊦ と ㊧、どちらが速いですか。

C: 数が小さい方が速い…?

C: 80 や 71.4 が何を表しているかわらなくなっちゃった。

C: なぜ 20 や 7 でわるの?

T: ㊦ と ㊧ の式は何を求めていますか。

C: 場面を図に表してみたよ。例えば ㊧ は、

C: 7 分で 500m のとき、1 分で □ m です。

C: 1 分間あたりを求めるから時間を 1 とすると…。

C: $500 \div 7$ は 1 分間あたりに進む道のりだ。

㊦ 80m

㊧ 約 71m

C: 1 分間に多く進んだほうが速いよ。

C: 80m と約 71m。

C: ㊦ の方が速い!

C: 50m 走なら数が小さいほうが速いね。

C: 同じ距離なら短いほうが速い!

図などを使って立式の理由を説明する場面を設けていますか?

式や答えの意味を問うていますか?

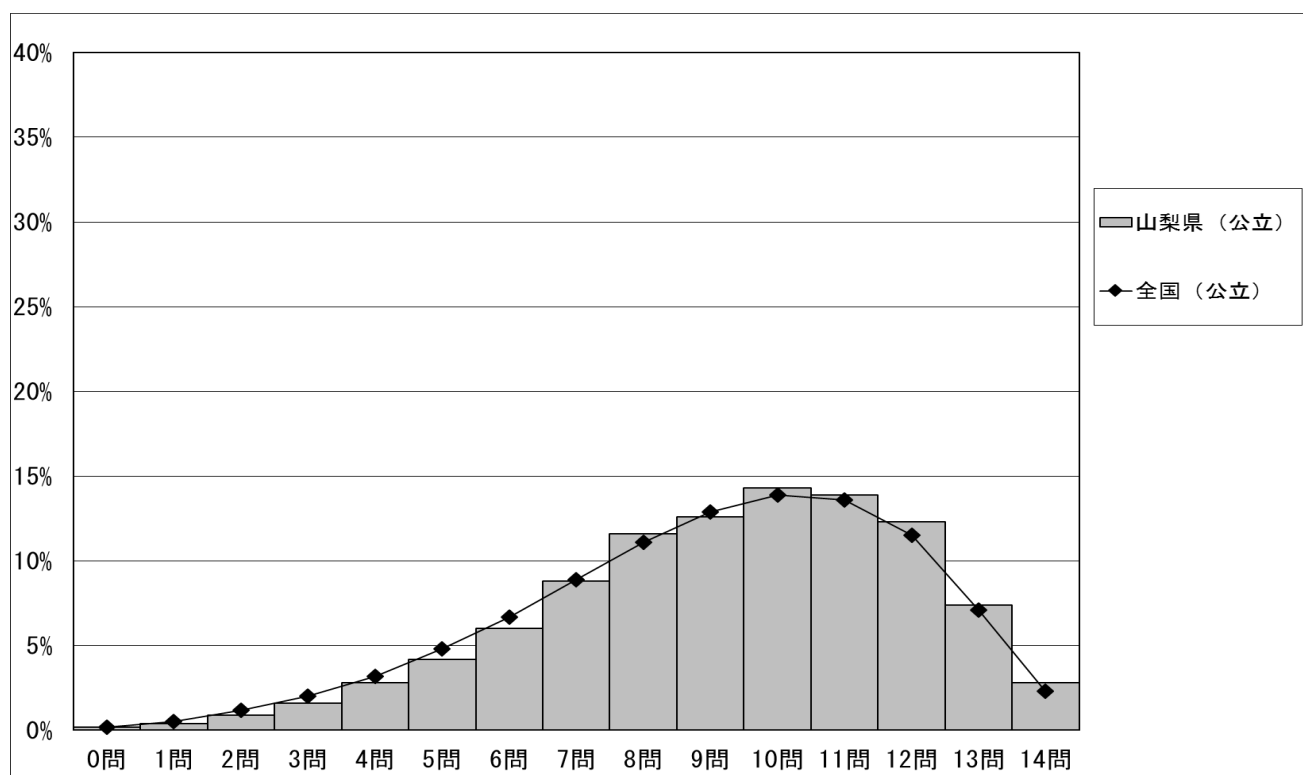


集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,052	9.2 /14	66	10.0	2.7
全国（公立）	903,157	9.0 /14	64.6	9.0	2.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		14	66	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.5	79.8
	書くこと	3	59.1	57.1
	読むこと	4	48.8	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	76.6	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	58.0	56.0
	話す・聞く能力	3	81.5	79.8
	書く能力	3	59.1	57.1
	読む能力	4	48.8	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	76.6	75.1
問題形式	選択式	6	64.4	63.9
	短答式	4	76.2	74.4
	記述式	4	58.0	56.0

正答数分布グラフ





問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	山梨県（公立）	全国（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	1オ					○				○			90.2	89.7	0.1	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	1エ					○				○			93.6	92.5	0.2	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	1オ				○	○					○	60.8	57.1	2.3	3.4	
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する		2エ					○			○			26.3	24.8	0.2	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く		2オ			○		○				○	77.9	74.5	6.1	8.5	
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する			1ア					○		○			44.5	43.7	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する			1ウ					○		○			58.2	58.7	0.3	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す			2イ					○			○	72.2	71.0	5.7	7.3	
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く			1オ		○			○			○	20.2	20.5	21.8	24.1	
4一①	漢字を読む（ <u>拙</u> ばして）			2(1)ウ(7)						○		○	97.5	97.5	1.3	1.5	
4一②	漢字を読む（ <u>詳細</u> ）			2(1)ウ(7)						○		○	90.3	88.8	2.4	2.3	
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する			1(1)イ(9)						○	○		73.6	74.0	1.1	1.1	
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する			2(1)イ(7)						○		○	45.0	40.3	1.6	1.7	
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く		2ウ			○		○				○	73.2	71.9	7.8	9.7	



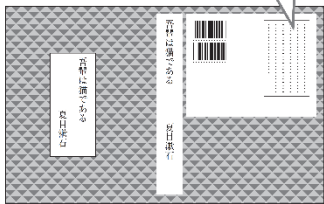
課題の見られる設問

3 (4)

3 次は、夏目漱石の作品「吾輩は猫である」の本のカバーに書かれている「紹介」と、「文章の一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

紹介

中学教師の吾沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽なもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



文章の一部

「これまでのあらすじ」 吾沙弥先生の家で暮らすことになった猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある茶臼で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、車座（人力車を引く人）に倒われている乱暴猫である。それ以来、「吾輩」はたびたび「黒」に出くわすようになる。

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶臼の中で寝ころびながら、いろいろな雑談をしていると、彼はいつもの白猫話をさも新しそうにくりかえしたあとで、吾輩に向かって下のごとく質問した。

「おめえはいままでに鼠を何びきとったことがある。」

智識は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇氣にいたってはとうい黒の比較にはならないと断言はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにきまりがよくはなかった。けれども事実が事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は、

「実はとうとうと思うて、まだとらない」と答えた。

黒は、彼の鼻の先からぴんとつばついている長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑った。元来黒は白猫をするだけにとどこか足りないところがあつて、彼の氣配を感じたようにのどをころころ鳴らして譁聴していれば、はなはだ御しやうい猫である。吾輩は彼と近づきになつてからすぐにこの呼吸をのみこんだから、この場合にも、なまじいおのれを弁護してますます形勢を悪くするのも感である、いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年であるから、だいぶんとつたろう」と、そそのかしてみた。

四 【紹介】に「緑部『様々に評価する』とありますが、『文章の一部』では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書きなさい。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

解答類型と反応率

解答類型		山梨県	全国	正答
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。 ② ①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。 ③ ②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。				
1	条件①、②、③を満たして解答しているもの。	20.2	20.5	◎
2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの。	2.3	2.1	
3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの。	0.3	0.3	
4	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの。	46.7	44.6	
99	上記以外の解答	8.6	8.5	
0	無解答	21.8	24.1	



分析と課題

- ・ものの見方や考え方が表れている部分を明確にすることに課題がある。
- ・引用の仕方についての知識に課題がある。

1番多い誤答は解答類型4で反応率は46.7%である。約半数の生徒に、問われていることがよく理解できず、「評価」している部分を文章の中から見付けられないことや、引用の仕方に問題があることが考えられる。

ものの見方や考え方が表れている部分を明確にして、自分の考えをもつようにするためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするような指導を行うことが必要となる。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切である。

その際、第1学年「知識及び技能」(2)「イ比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することも大切である。

授業改善の POINT

読むことの
学習過程

構造と内容の把握

精査・解釈

考えの形成・共有

**学習過程を通して
理解したことを基に
しながら、言語活動を充実させ、目指す
資質・能力を確実に育もう！**

1

学年の学習で…

「少年の日の思い出」で優れた表現だと思う部分をスピーチしよう。

【C読むこと(1)オを目標として言語活動を設定】



私は、エーミールの部屋に入ってから、家に戻るまでの表現が印象に残りました。

私は、最後の場面のちょうを一つ一つ取り出してつづす部分がいいと思います。

後半の「僕」とエーミールの会話も好きだけど、前半の「私」のセリフも、好きです。

言語活動は設定されているが… **Before**

文章をどのように捉えたのか

曖昧な意見の発表

ストーリーを読んで感じた、漠然とした課題に対する意見を発表している。明確な根拠を基に[精査・解釈 工の指導事項]、考えを形成する活動になっていない。

指導の工夫

話合いの観点を明確にすることで

ものの見方や考え方が表れている部分を明確にして、自分の考えをもてるようにする



みなさんが考える優れた表現とは、どのようなものですか。具体的な表現も取り入れてスピーチしましょう。説明するときは、必ず本文を参照するようにしましょう。

教科書〇ページの〇行目を見てください。私は、「盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった…」の表現が優れていると思います。理由は、「僕」のちょうに対する考え方が…

私も、「僕」の考え方が伝わる優れた表現に注目しました。私は、最後の文の「ちょうを一つ一つ…」の部分が…

やっぱり「僕」のちょうに対する思いが強すぎたからこうなったのだなあ。



After
文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを発表



本文中の様々な描写に注目して、具体的な描写を根拠に自分の考えを伝える活動になるよう工夫されている。



生徒の考えが確かなものに

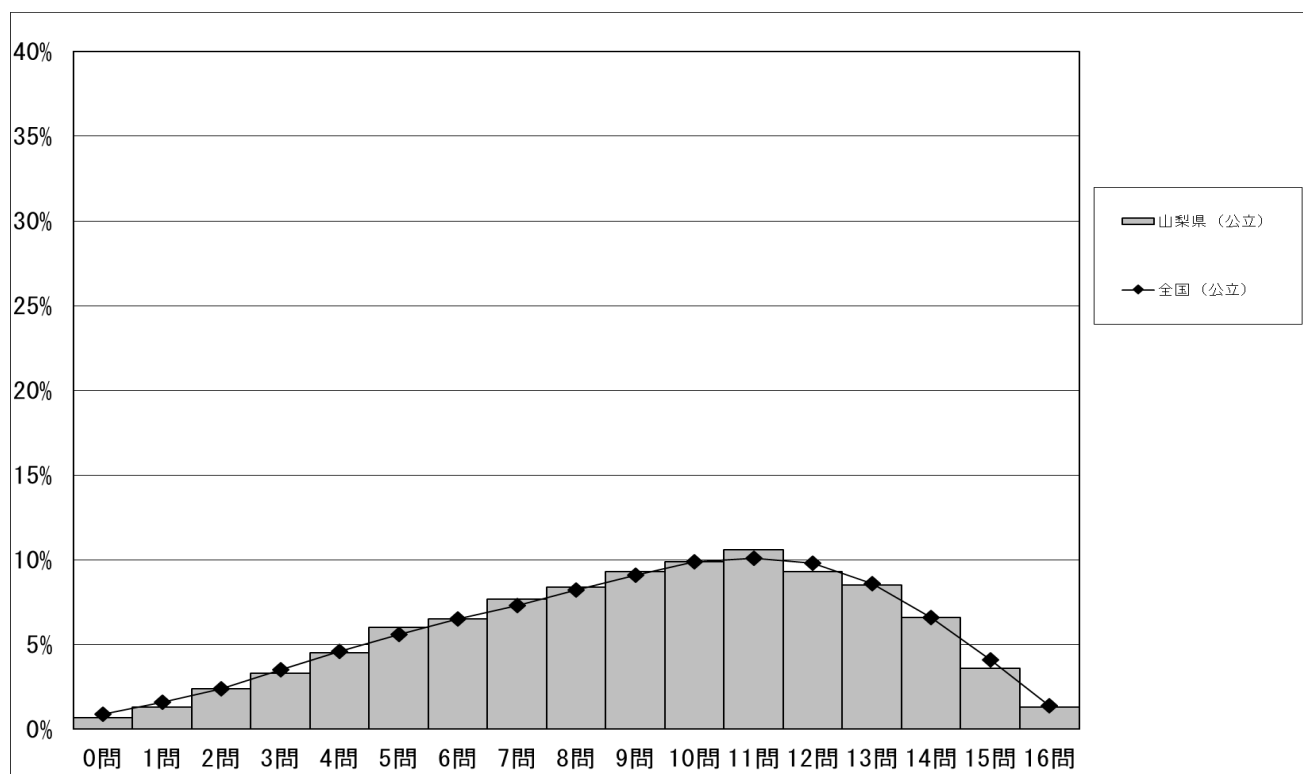


集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	6,054	9.1 /16	57	9.0	3.6
全国（公立）	903,253	9.1 /16	57.2	10.0	3.7

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		16	57	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	63.7	64.9
	図形	4	51.6	51.4
	関数	3	57.4	56.4
	資料の活用	4	54.4	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	7	41.1	41.1
	数学的な技能	3	76.6	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.2	65.6
問題形式	選択式	2	51.3	52.4
	短答式	9	70.8	70.5
	記述式	5	35.0	35.0

正答数分布グラフ





中3数学



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1	$(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する	2(1) ア						○			○		75.3	77.1	0.4	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	1(3) ウ						○			○		67.9	71.3	7.7	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ		1(2) ウ						○	○			67.5	68.1	0.3	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する			1(1) ア					○		○		49.9	48.0	7.3	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める				1(1) ア			○			○		86.6	84.5	0.7	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	2(1) イ,ウ					○				○		84.8	83.9	2.7	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ,ウ					○					○	60.7	61.8	13.2	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	2(1) イ,ウ					○					○	30.0	30.3	27.5	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める			1(1) ウ				○			○		94.2	93.5	1.5	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する			1(1) エ,オ			○					○	28.0	27.7	21.8	24.7
8(1)	気温差が 9°C 以上 12°C 未満の階級の度数を書く				1(1) ア				○		○		84.7	83.0	3.2	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ				1(1) ア				○	○			35.2	36.8	0.8	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する				1(1) イ		○					○	11.1	11.1	30.0	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	2(2) イ,ウ					○					○	45.2	44.3	3.6	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	2(1) ア						○			○		65.6	64.3	11.4	14.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	2(1) ア					○				○		28.1	28.8	27.1	28.7



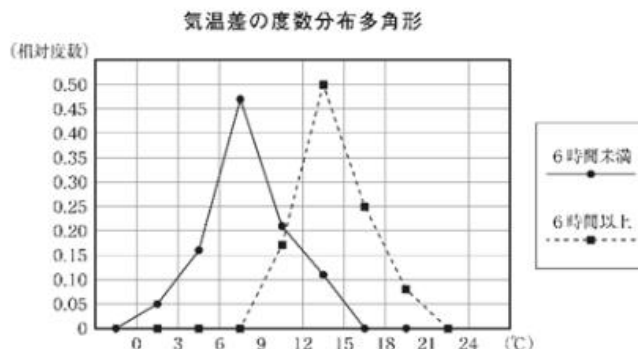
課題の見られる設問

8 (3)

気温差の度数分布表

気温差(℃)	6 時間未満		6 時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ～ 3	1	0.05	0	0.00
3 ～ 6	3	0.16	0	0.00
6 ～ 9	9	0.47	0	0.00
9 ～ 12	4	0.21	2	0.17
12 ～ 15	2	0.11	6	0.50
15 ～ 18	0	0.00	3	0.25
18 ～ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

解答類型と反応率

1 段目：山梨県(公立)の反応率(%), 2 段目：全国(公立)の反応率(%)

解答類型											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	99	無解答
3.3	7.8	0.1	5.0	3.6	5.8	8.6	1.8	0.1	1.2	32.6	30.0
3.1	8.0	0.3	4.7	3.1	5.8	8.1	1.6	0.1	1.4	31.6	32.2

分析と課題

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

上記の表より、解答類型1が正答で3.3%、解答類型2が準正答で7.8%である。この2つの反応率を合わせた11.1%が正答率になる。また、無解答率は30.0%である。

解答類型7の反応率は8.6%であり、その具体的な例としては以下のようなものがある。

(例) 6時間以上の度数分布多角形の方が相対度数が大きいから。

このように記述した生徒は、「6時間以上の度数分布多角形の方が6時間未満の度数分布多角形よりも右側にある」ことを明示せずに、度数分布多角形の相対度数を比較して記述したものと考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、代表値の大小比較だけではなく、データの分布の比較から検討し、判断する場面を設定することが大切である。その際、作った二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合うことが考えられる。その上で、見いだした分布の特徴から結論をいうためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する活動を取り入れることが大切である。

*平成29年度 数学B 5 (3) で類題を出題している。(全国正答率18%)



学年の学習で...

データの活用における改善・充実

2つの資料について相対度数で比較する必要があることを確認する

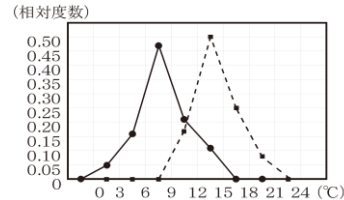
気温差について詳しく調べるために日照時間について、6時間未満の日と6時間以上の日に分けて度数分布表にまとめました。

日照時間が6時間以上の方が、気温差が大きい傾向にあるといえるでしょうか。

	A	B	C
1 気温差(°C)	6時間未満 度数(日)	6時間以上 度数(日)	
2 0~3	1	0	
3 3~6	3	0	
4 6~9	9	0	
5 9~12	4	2	
6 12~15	2	6	
7 15~18	0	3	
8 18~21	0	1	
9 合計	19	12	

授業改善の
POINT

ICT 活用！



T: 横軸は気温差、縦軸は相対度数だね。

度数分布多角形を用いて、2つの資料の分布の特徴を捉える場面を設定する

2つの度数分布多角形を比べて、日照時間が6時間以上の方が、気温差が大きい傾向にあるといえるでしょうか。

S: データの大きさが違うけど、相対度数にすれば比べられるね。

T: 6時間以上と6時間未満の度数の合計が異なるので、相対度数を考える必要がありますね。度数分布表を作り直してみましょう。

S: いえるよ。6時間以上の方が、最頻値が大きいから。

S: 今回のような場合、最頻値という、ある点の比較だけでよいのかな。

ICT 活用！

作り直した気温差の度数分布表

	A	B	C	D	E
1 気温差(°C)	6時間未満 度数(日)	相対度数	6時間以上 度数(日)	相対度数	
2 0~3	1	0.05	0	0.00	
3 3~6	3	0.16	0	0.00	
4 6~9	9	0.47	0	0.00	
5 9~12	4	0.21	2	0.17	
6 12~15	2	0.11	6	0.50	
7 15~18	0	0.00	3	0.25	
8 18~21	0	0.00	1	0.08	
9 合計	19	1.00	12	1.00	

T: 度数分布多角形を比べるとき、他に何をみたらよいですか？

S: 形かな。

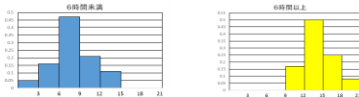
S: 2つの度数分布多角形がほぼ同じ形になっているね。

S: 同じ形で位置が違うということは、分布の全体的な傾向がわかる根拠になるんじゃないかな。

S: 説明にそれを加えようよ。

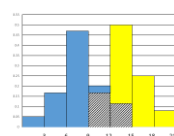
ICT 活用！

S: パソコンを使って、ヒストグラムに表してみるよ。



T: 横軸は気温差、縦軸は相対度数だね。

S: ヒストグラムを重ねたけど、隠れてしまう部分があるね。



S: 見にくいから、度数分布多角形にしてみたらどうか。

S: 「同じような形で、6時間以上の方が右側にあるから」という説明でもよさそうだね。

S: これで、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあることがいえだね。

2つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、その分布の特徴について話し合う活動を取り入れよう！



山梨県学力把握調査

授業改善 の **Point'21**

1 調査の目的

- ・節目の学年における生徒の学習の定着状況を把握するため、調査を実施し、調査結果の分析を通して、早い段階から学習内容の不十分な理解を解消するなど、きめ細かな指導に役立てる。
- ・授業における指導方法や学校、家庭、地域における学習環境の改善に資する。
- ・全国と本県を比較・分析し、授業改善につなげる。

2 調査の対象等

実施学年	対象生徒数	対象教科	調査問題の範囲
中学校第2学年	6, 250 人	国語・数学・英語	中学校第1学年までに学習した内容

3 調査日時

実施日	実施時間		
令和3年 5月27日（木）	国語	数学	英語
	45分	45分	45分

※全国学力・学習状況調査と同一日に実施

4 各教科の主な結果

教科	設問数	全国との差
国語	28問	1. 1
数学	27問	0. 1
英語	33問	1. 7

※調査は全国を対象として約10万人が実施

5 各教科の概要

【国語】

「言語についての知識・理解・技能」はよくできている。一方で、「書く力」「読む力」において、文章の内容について自分の考えを記述することに課題がある。

【数学】

4領域すべてが、全国正答率と同程度である。「関数」領域は正答率が低く、課題がある。問題形式では、記述式の正答率が低く、課題がある。

【英語】

「聞くこと」「読むこと」の領域において「理解する力」の正答率が高い。一方で、文構造や文法事項、単語の知識等における正確さの部分で課題がある。

【意識調査】

3教科とも肯定群の割合が全国平均を上回っている。

6 調査に基づく結果を踏まえた取組

①結果分析・公表

- ・学力調査を踏まえた授業改善のための説明会

（6月29日：小学校、7月1日：中学校 実施済み）

教諭等に向け、授業改善のための説明会を実施した。「授業改善指導資料」を配付し授業改善への具体例を示した。9月中に解説動画を配信し、授業改善の促進を図る。

- ・学力向上フォーラム（8月20日実施）

調査の分析結果を公表し、本県生徒の学力調査における結果と課題を共有する。

- ・山梨大学との連携

山梨大学と連携し、山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について、専門的見地から助言を得、分析や各種資料に反映する。

②研修会・学校訪問

- ・分析結果を反映させた研修や学校訪問による指導等を行う。学校訪問の際には、授業観察や研究会での様子を踏まえ、適切な指導を行う。

③「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、確実な学力の定着を目指す。
- ・10月中に配信し、研修会や学校訪問等で活用を促す。

④Web 分析システムの利用した個別学習の推進

- ・Web 分析システムの利用を促し、個別の学習課題の把握や個に合った教材の提供、家庭学習の推進を図る。



実施生徒数	設問数	全国との差
5, 847人	28問	1.1

分類		区分	設問数 (問)	全国との差
問題の内容	基礎 応用	基礎	24	1.2
		応用	4	1.2
	領域	音声言語	5	-0.1
		説明的文章	7	0.7
		文学的文章	4	1.4
		言語事項	12	1.8
評価の 観点		話す力・聞く力	5	-0.1
		書く力	5	1.0
		読む力	9	1.0
		言語についての知識・理解・技能	12	1.8
単元別		話の内容の聞き取り	5	-0.1
		説明的文章の内容・要旨の理解	3	0.1
		説明的文章の構成・展開	1	0.9
		文学的文章の内容・主題の理解	2	1.5
		心情の理解	2	1.1
		漢字の読み書き	6	0.9
		漢字・語句の知識	2	4.3
		文法・敬語・表現	4	2.0
		活用	3	1.3
問題形式		選択式	16	0.9
		短答式	9	1.5
		記述式	3	1.2



中2国語



通し 番号	設問内容	基礎応用	出題形式	全国との 差
1	話し合いのテーマを選ぶ	基礎	選択式	0.0
2	宮田さんの意見の述べ方を選ぶ	基礎	選択式	0.3
3	森田さんの意見の内容を選ぶ	基礎	選択式	0.2
4	手塚さんと大石さんの意見の述べ方を選ぶ	基礎	選択式	0.7
5	司会者の話し合いの進め方を選ぶ	基礎	選択式	-1.4
6	漢字の読み(資料を丹念に読み込む。)	基礎	短答式	6.5
7	漢字の読み(友達に頼られる。)	基礎	短答式	0.0
8	漢字の読み(優勝候補との実力差を悟る。)	基礎	短答式	0.2
9	漢字の書き(アジア諸国とのぼうえきが盛んだ。)	基礎	短答式	5.3
10	漢字の書き(ひたいに汗が光る。)	基礎	短答式	-5.1
11	漢字の書き(わたゆきが降る。)	基礎	短答式	-1.0
12	歴史的かなづかいを現代かなづかいに直す	基礎	短答式	4.6
13	正しく文節に分けているものを選ぶ	基礎	選択式	0.7
14	正しく単語に分けているものを選ぶ	基礎	選択式	2.4
15	正しい部首名を選ぶ	基礎	選択式	4.2
16	接続詞の働きを選ぶ	基礎	選択式	0.2
17	図の内容と合っているものを選ぶ	基礎	選択式	-1.9
18	段落の役割を正しく説明しているものを選ぶ	基礎	選択式	0.9
19	文章の内容をまとめた文の空欄に入る言葉を書き抜く	基礎	短答式	1.9
20	文章についてのまとめの空欄に入る言葉を書く	応用	記述式	0.1
21	文章の表現の特徴として適切なものを選ぶ	基礎	選択式	1.5
22	登場人物の心情について説明している部分を書き抜く	基礎	短答式	1.6
23	登場人物の心情を選ぶ	基礎	選択式	1.5
24	登場人物の心情をまとめた表の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式	0.8
25	漢字の部首を選ぶ	基礎	選択式	4.3
26	メモの原稿の特徴を選ぶ	基礎	選択式	0.3
27	意見文の原稿の特徴を選ぶ	応用	選択式	0.9
28	意見文の原稿の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式	2.6



【正答率が低い問題 下位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 4	応用	記述式	0.8
設問内容	登場人物の心情をまとめた表の空欄に入る言葉を書く		
課題及び授業改善の手立て	「読むこと」の領域において、登場人物の心情の理解に課題がみられる。 ⇒文学的な文章の学習において、言葉を手がかりにしながら文脈をたどり、登場人物の相互関係、心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読むように指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 8	応用	記述式	2.6
設問内容	意見文の原稿の空欄に入る言葉を書く		
課題及び授業改善の手立て	「読むこと」及び「書くこと」の領域において、資料から読み取った内容を根拠として、自分の考えを書くことに課題がみられる。 ⇒説明的な文章の学習において、資料などの、いくつかの情報の中から、自分の考えを説明する上で根拠となる情報を選んで説明することや、その情報が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えることを指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 6	基礎	選択式	0.3
設問内容	メモの原稿の特徴を選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	「読むこと」の領域において、目的に応じて、文章の特徴を捉えることに課題がみられる。 ⇒文章全体において中心となる内容を明らかにした上で、その内容について、比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方に基づいて、まとめていく指導をすることが大切である。		

【全国平均と差がある問題 上位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
6	基礎	短答式	6.5
設問内容	漢字の読み(資料を丹念に読み込む。)		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
9	基礎	短答式	5.3
設問内容	漢字の書き(アジア諸国とのぼうえきが盛んだ。)		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
1 2	基礎	短答式	4.6
設問内容	歴史的かなづかいを現代かなづかいに直す		



【全国平均と差がある問題 下位3問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
10	基礎	短答式	-5.1
設問内容	漢字の書き（ひたいに汗が光る。）		
課題及び授業改善の手立て	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ウ 漢字に関する事項（旧学習指導要領）」の領域において、漢字を書くことに課題がみられる。 ⇒日常の学習や生活の中でも、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認し、漢字の正しい読み書きを行う態度と習慣を養うことが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
17	基礎	選択式	-1.9
設問内容	図の内容と合っているものを選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	「読むこと」の領域において、文章の内容・要旨の理解に課題がみられる。 ⇒説明的な文章の学習において、段落の要点や文章の要旨を捉える中で、文章中で用いられている図や表が本文にどのように関わっているのかを考える学習を設定していくことが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
5	基礎	選択式	-1.4
設問内容	司会者の話し合いの進め方を選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	「話すこと・聞くこと」の領域において、話の内容の聞き取りに課題がみられる。 ⇒「話すこと・聞くこと」の学習において、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認し、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するよう指導することが大切である。		



【国語の学習に関する意識調査 結果 全国との差(ポイント)】

質問 番号	質問内容	よくあてはまる	ややあてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1	質問したりアドバイスし合ったりして 思いや考えを伝え、先生や友だち、地 域の人と進んで交流しようとしてい る。	2.9	2.5	-2.8	-1.4
2	友だちが書いた文章や話したことを参 考にして、自分にはない新しい考えや 自分とは違う考えをもとうとしてい る。	6.3	-0.7	-3.4	-0.9
3	自分が書いた文章や話すときの原稿を 見直して、理由が書けているか、もとの 文章を踏まえているか、構成がしっ かりしているかななどを振り返ってい る。	4.6	-0.1	-1.8	-1.2
4	言葉を選んだり工夫して使ったりし て、きめ細かな心の様子や情景を伝え ようとしている。	5.2	0.1	-3.1	-0.7
5	本で読んだことを参考にして、学校や 家庭の学習や生活の場面で、より良 くなるよう工夫している。	4.9	0.0	-1.4	-1.7
6	敬語や丁寧語に、どのような心が込め られているかを考えている。	8.3	-3.5	-2.4	-0.5
7	はっきりと正確に伝わるように、違う 言葉を使ったり文章を書き直したりし ている。	6.2	-0.8	-2.8	-0.7



課題の見られる設問

5 (4)

自分が伝えたいことについて複数の資料の中から情報を取り出し理由を考える。解答は、「なぜなら」に続くように、90字程度で書く。

県の正答率と全国との差

県正答率 40%以下 全国との差 +2.6ポイント

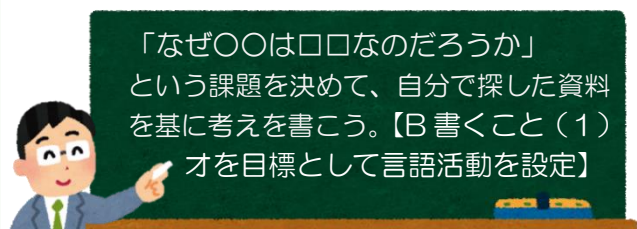
分析と課題

- ・「なぜなら」に対応する文末にせずに、解答した生徒は、根拠や理由を述べる際の表現の仕方や語句の使い方に課題がある。
- ・資料に書いてある事実のみを解答した生徒は、読み取った情報を目的や意図に応じて活用することに課題がある。
- ・資料の情報を用いずに解答した生徒は、読み手に分かりやすいように根拠を明確にして書くことに課題がある。



1 学年の学習で...

本や資料から文章や図表などを引用して根拠を示し、自分の考えを書く活動を行う際に・・・ 【書くこと(2)ア】



資料と考えの関係性はどうか確認し合ってみましょう。

図書室のこの資料を付け足して説明したけれど、どう思う？

〇〇君の意見は、□□だよ。このグラフの資料を示せば、説得力が増すと思うよ。私は、この資料の内容を引用したけれど、引用部分の量は多すぎないかな...

自分の考えが読み手に伝わる文章になっていますか。

僕の書いた意見文を読んでみて、考えが伝わりやすいかどうか意見を聞かせてほしいのだけど。

たくさんの資料が取り上げられていて、いいと思うけれど、ただ資料の内容を書いているだけだと、考えとどうつながっているかが少し分かりにくい気がするな。資料を読んでどう思ったのかも書いてみたら？

そうか！資料を自分がどう捉えたのか、資料についての自分の考えも加えて説明してみよう。ありがとう。

授業改善の
POINT

取り出した情報が、自分の伝えたい根拠としてふさわしいか検討したり、取り出した情報について自分なりの考えを加えたりする学習活動を取り入れよう。



実施生徒数	設問数	全国との差
5, 850人	27問	0.1

分類		区分	設問数（問）	全国との差
問題の内容	基礎 応用	基礎	22	0.2
		応用	5	-0.1
	領域	数と式	11	0.6
		図形	5	0.5
		関数	7	-0.7
		資料の活用	4	-0.4
評価の 観点		知識・理解	12	-0.1
		技能	11	0.4
		数学的な考え方	4	-0.4
単元別		正の数と負の数	2	-0.1
		文字を用いた式	3	2.3
		方程式	2	0.0
		方程式の利用	2	-0.2
		平面図形	2	1.8
		空間図形	3	-0.3
		比例・反比例	5	-0.6
		資料の活用	4	-0.4
		活用	4	-0.4
問題形式		選択式	9	-0.5
		短答式	16	0.5
		記述式	2	-0.3



中2数学



通し 番号	設問内容	基礎応用	出題形式	全国との 差
1	ある数より大きい数を答える	基礎	短答式	-1.3
2	正の数・負の数の乗法・除法を含む計算をする	基礎	短答式	1.2
3	文字式で表す	基礎	選択式	2.6
4	文字式の加減計算をする	基礎	短答式	6.5
5	方程式を解く	基礎	短答式	-0.2
6	比例式を解く	基礎	短答式	0.3
7	平行移動を利用して問題を解く	基礎	短答式	1.6
8	コンパスと定規で、三角形の高さを表す線分を作図する	基礎	短答式	2.3
9	面と平行な辺の数を答える	基礎	短答式	0.4
10	投影図で示された立体を選ぶ	応用	選択式	0.6
11	展開図から三角柱の体積を求める	基礎	選択式	-1.9
12	双曲線上の点を求める	基礎	選択式	-0.2
13	比例か反比例かを判断し、比例定数を求める	基礎	短答式	-0.3
14	比例のグラフをかく	基礎	短答式	-1.8
15	反比例のときの対応する値を求める	基礎	短答式	-0.2
16	反比例の式から値を求める	基礎	短答式	-0.9
17	データの範囲を求める	基礎	選択式	-0.9
18	データの平均値を求める	基礎	短答式	0.9
19	中央値が入っている階級を選ぶ	基礎	選択式	-0.8
20	相対度数について正しいものを選ぶ	基礎	選択式	-0.8
21	文字式の大小関係を正しく示したものを選ぶ	基礎	選択式	-2.2
22	文字式が表す量について、正しいものを選ぶ	基礎	選択式	-1.1
23	方程式の空欄に当てはまる式を入れ、答えを求める	基礎	短答式	0.6
24	数量関係を読み取って方程式で状況を正しく表す	応用	短答式	-0.3
25	方程式を利用して、値を求める	応用	記述式	0.1
26	比例を利用して、時刻を求める	応用	短答式	-0.4
27	比例を利用して計算し、自分の考えを表す	応用	記述式	-0.7



【正答率が低い問題 下位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 5	応用	記述式	0.1
設問内容	方程式を利用して、値を求める		
課題及び授業改善の手立て	「A 数と式」領域において、方程式を利用して値を求めることに課題がみられる。 ⇒具体的な場面における問題を一元一次方程式を活用して解決できるようにするためには、以下の①～④のような一連の活動を行うことを通して、方程式を活用し問題を解決する方法を理解できるように指導する必要がある。 ① 求めたい数量に着目して、それを文字で表す。 ② 問題の中の数量やその関係から、二通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数で表す。 ③ それらを等号で結んで方程式をつくり、その方程式を解く。 ④ 求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求める。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 7	応用	記述式	-0.7
設問内容	比例を利用して計算し、自分の考えを表す		
課題及び授業改善の手立て	「C 関数」領域において、比例を利用し、それをもとに自分の考えを表すことに課題がみられる。 ⇒二つの数量関係を表、式、グラフで表し、その関係が比例、反比例であることが理解できるように指導する必要がある。その上で、二つの数量の変化や対応について様々な特徴を捉え、表、式、グラフを用いて説明する活動を取り入れることが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 4	応用	短答式	-0.3
設問内容	数量関係を読み取って方程式で状況を正しく表す		
課題及び授業改善の手立て	「A 数と式」領域において、数量関係を読み取って方程式で状況を正しく表すことに課題が見られる。 ⇒一元一次方程式を利用して問題を解決することができるようにするために、数量や数量の関係を文字を用いた式で表す活動や文字を用いた式の意味を読み取る活動を取り入れることが大切である。		



【全国平均と差がある問題 上位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
4	基礎	短答式	6.5
設問内容	文字式の加減計算をする		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
3	基礎	選択式	2.6
設問内容	文字式で表す		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
8	基礎	短答式	2.3
設問内容	コンパスと定規で、三角形の高さを表す線分を作図する		

【全国平均と差がある問題 下位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 1	基礎	選択式	-2.2
設問内容	文字式の大小関係を正しく示したものを選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	「A 数と式」領域において、文字式を利用して大小関係を表すことに課題がみられる。 ⇒不等号を用いて数量の大小関係を式に表す活動や不等号を用いた式の意味を読み取る活動を取り入れることが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
1 1	基礎	選択式	-1.9
設問内容	展開図から三角柱の体積を求める		
課題及び授業改善の手立て	「B 図形」領域において、展開図から三角柱の体積を求めることに課題がみられる。 ⇒空間図形において、その見取図、展開図、投影図を用いて図形の各要素の位置関係を調べ、論理的に考察できるように指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
1 4	基礎	短答式	-1.8
設問内容	比例のグラフをかく		
課題及び授業改善の手立て	「C 関数」領域において、比例のグラフをかくことに課題がみられる。 ⇒比例のグラフについては、変域が負の数まで拡張された上で、原点を通る直線であることを理解し、比例定数 a の値によってどのようにグラフが変わるかを指導することが大切である。		



【数学の学習に関する意識調査 結果 全国との差(ポイント)】

質問 番号	質問内容	よくあてはまる	ややあてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1	数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	1.6	0.4	-0.2	-0.8
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	4.5	1.3	-3.5	-1.2
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	6.0	-0.7	-3.3	-0.9
4	アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。	2.8	4.4	-4.7	-1.4
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	4.8	2.1	-4.0	-1.6
6	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。	4.7	1.5	-3.1	-1.7
7	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	5.2	0.9	-3.1	-1.6



課題の見られる設問

⑥(2) 方程式を利用して値を求める問題

折り紙を何人かの生徒に配るのに、1人に3枚ずつ配ると20枚余りました。そこで、1人に5枚ずつ配ったら2枚たりなくなりました。生徒の人数を求めなさい。

※⑥(2)の類題 【平成21年度 全国学力・学習状況調査問題 数学A】

解答類型と反応率

県正答率 10%以下

全国との差 0.1ポイント

分析と課題

一元一次方程式をつかって問題を解決するために、数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目することに課題がある。

授業改善の POINT

1 学年の学習で...

方程式の問題解決における改善・充実

折り紙を何人かの生徒に配るのに、1人に3枚ずつ配ると20枚余りました。そこで、1人に5枚ずつ配ったら2枚たりなくなりました。生徒の人数を求めなさい。

着目する数量を問題場面から取り出す

T: どんな数量に着目すればいいのかな?

S: 生徒の人数かな。

S: 折り紙の枚数かな。

S: 1人に配る折り紙の枚数もだね。

言葉の式や線分図を使って、等しい関係にある数量を見つける

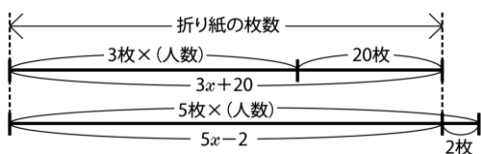
T: 生徒の人数を x 人とする、折り紙の枚数は、どのように表せるかな?

言葉の式

(3枚ずつ)
(折り紙の枚数) = $3 \times (\text{人数}) + 20$

(5枚ずつ)
(折り紙の枚数) = $5 \times (\text{人数}) - 2$

線分図



S: 折り紙の枚数は、 $3x + 20$ と $5x - 2$ の2通りで表せるね。

方程式をつくる

T: 方程式をつくってみましょう。

T: $3x + 20$ と $5x - 2$ は何を表しているでしょうか。

S: $3x + 20$ も $5x - 2$ も折り紙の枚数を表しているよ。

S: 等しいから等号で結んで、 $3x + 20 = 5x - 2$ になるね。

T: 生徒の人数は何人かな?

S: 方程式を解くと、 $x = 11$ だから生徒の人数は、11人だね。

T: 折り紙の枚数も求められますか?

S: $3 \times 11 + 20 = 53$

S: $5 \times 11 - 2 = 53$

どちらに代入しても折り紙の枚数が53枚だと求められるね。

方程式をつくる手順を振り返る

T: この問題では、方程式をどのような手順でつくったかな? 話し合ってみよう。

- 何を文字で表すかを決める。
- その文字を使って、別の数量を2通りの式に表す。
- それらを等式で表し、方程式をつくる。

折り紙の枚数を x 枚として、生徒の人数に着目した方程式をつくる学習活動も取り入れよう!



実施生徒数	設問数	全国との差
6, 0 0 5 人	3 3 問	1. 7

分類		区分	設問数 (問)	全国との差
問題 の 内 容	基礎 応用	基礎	23	1. 4
		応用	10	2. 2
	領域	聞くこと	10	1. 1
		読むこと	10	2. 1
		書くこと	13	1. 7
評価の 観点	理解する力		20	1. 6
	表現する力		4	2. 3
	言語や文化の知識・理解		9	1. 5
単元別	リスニング（絵や図表の選択）		2	2. 0
	リスニング（質問に答える）		5	1. 0
	リスニング（英文選択）		3	0. 8
	読解問題（下線部の問い）		1	3. 1
	読解問題（英問英答）		1	2. 9
	読解問題（概要把握）		3	1. 8
	読解問題（情報検索）		2	1. 5
	読解問題（空所補充）		3	2. 2
	語順整序問題		4	1. 1
	語彙・語法問題		5	1. 8
	英作文（空所補充）		2	1. 4
	活用		2	3. 1
問題形式	選択式		22	1. 7
	短答式		6	0. 8
	記述式		5	2. 4



中2英語



通し 番号	設問内容	基礎応用	出題形式	全国との 差
1	絵に合う状況(～の下)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	1.0
2	絵に合う状況(遊泳禁止)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	0.5
3	絵に合う状況(誕生日)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	0.8
4	質問(What ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	-0.3
5	質問(Can I ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	2.0
6	質問(Whose ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	0.5
7	英文と質問を聞いて適切な答えの絵(時間割)を選ぶ	基礎	選択式	1.9
8	英文と質問を聞いて適切な答えの絵(したこと)を選ぶ	基礎	選択式	2.2
9	図表を見ながら対話と質問を聞き適切な学校行事を選ぶ	基礎	選択式	1.8
10	図表を見ながら対話と質問を聞き適切な学校行事を選ぶ	基礎	選択式	1.5
11	日本文の内容に合う単語(September)を書く	基礎	短答式	-3.1
12	日本文の内容に合う単語(brother)を書く	基礎	短答式	3.5
13	threeのあとに続く複数形orangesを選ぶ	基礎	選択式	0.1
14	動詞の過去形(studied)を選ぶ	基礎	選択式	3.6
15	主語が複数の場合のbe動詞(are)を選ぶ	基礎	選択式	4.6
16	whenと一般動詞の疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	2.9
17	助動詞canを用いた疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	-0.5
18	一般動詞の否定の命令文を正しい語順で表す	基礎	短答式	6.0
19	How manyの疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	-3.9
20	Are you hungry?に対する応答文を書く	応用	記述式	1.2
21	応答文から、レストランに行く提案をする文を書く	応用	記述式	1.7
22	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる	応用	記述式	2.0
23	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる	応用	記述式	4.3
24	英語のちらしを読み、質問内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式	1.4
25	英語のちらしを読み、質問内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式	1.5
26	英語のブログを読み、適切な題名を選ぶ	応用	選択式	0.7
27	アンケート結果と会話を読み、空所に入る語を選ぶ	基礎	選択式	1.5
28	アンケート結果と会話を読み、内容が一致する文を選ぶ	応用	選択式	1.5
29	英文を読み、itが表す語句を選ぶ	基礎	選択式	3.1
30	英文を読み、内容が一致する文を選ぶ	応用	選択式	3.0
31	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ	応用	選択式	4.0
32	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ	応用	選択式	1.2
33	英文を読み、英語の質問に英語で答える	応用	記述式	2.9



【正答率が低い問題 下位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
3 3	応用	記述式	2.9
設問内容	英文を読み、英語の質問に英語で答える		
課題及び授業改善の手立て	「読むこと」の領域において、英文の内容を問うような質問に対して、英語で書いて答えることに課題がみられる。” Where does Aoi take pictures of her dog?” という質問に対して、主語と動詞を含む 6 語以上の英文で答えるように指定されている問題である。文構造や文法事項を理解した上で、正確な文の形で質問の答えを書くことに課題がみられる。 ⇒質問に対して書いて答え、書いた英文の正確さをグループ等で確認し、間違いに気付かせ修正させるような活動を通して、指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 1	応用	記述式	1.7
設問内容	応答文から、レストランに行く提案をする文を書く		
課題及び授業改善の手立て	会話の流れから、レストランに相手を誘う表現を書いて答える問題で、「書くこと」の領域において、会話の流れに沿って英文を書くことに課題がみられる。 ⇒ここではこのように会話の流れを読み取り、その内容をもとにふさわしい文を書いて表現する複数の技能を統合させた力を問う活動については、普段から意識して授業に取り入れて指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
3 2	応用	選択式	1.2
設問内容	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	中学生のアオイが大切にしているものについて書いた日常的な話題をテーマにした長めの英文の概要を把握し、簡潔にまとめた内容の（ ）に当てはまる語を選ぶ問題で、「読むこと」の領域において、英文の内容を簡潔にまとめることに課題がみられる。 ⇒登場人物などについての情報を時系列で整理しながら、英文の概要を把握する活動を通して、読解力を身に付けさせるための指導をすることが大切である。		

【全国平均と差がある問題 上位 3 問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
1 8	基礎	短答式	6.0
設問内容	一般動詞の否定の命令文を正しい語順で表す		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
1 5	基礎	選択式	4.6
設問内容	主語が複数の場合の be 動詞(are)を選ぶ		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
2 3	応用	記述式	4.3
設問内容	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる		



【全国平均と差がある問題 下位3問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
19	基礎	短答式	-3.9
設問内容	How many の疑問文を正しい語順で表す		
課題及び授業改善の手立て	「言語や文化の知識・理解」の領域において、疑問詞を用いた疑問文を正しい語順で表すことについて課題がみられる。”How many sisters do you have?”と並べ替える問題だが、疑問詞＋名詞で始まる文の形を理解していない。この形の文は小学校外国語の段階から何度も話して聞いて、やり取りの中で使ってきている表現にも関わらず、書いたり並べ替えたりすることになると経年的に課題がみられる。 ⇒やり取りをした後に話したことや聞いたことなどを書き、その正確さを確かめる場面を通して、指導することが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
11	基礎	短答式	-3.1
設問内容	日本文の内容に合う単語（September）を書く		
課題及び授業改善の手立て	「言語や文化の知識・理解」の領域において、日本文の内容に合う単語を書くような語彙力を問う問題において課題がみられる。「わたしの誕生日は9月8日だ。」のメモをもとに、”My birthday is () 8.”の()内に、”September”を書く問題である。日付や誕生日については、小学校外国語の段階からよく話したり聞いたりしてきている内容であり、9月を音声としては認識し理解しているが、音声と文字を一致させて書く際の語彙力という知識の点において、課題がみられる。 ⇒習った単語を、話すことや書くことを通して何度も繰り返し使用できるような場面を設定し、語彙力を高めるための指導をすることが大切である。		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
17	基礎	短答式	-0.5
設問内容	助動詞 can を用いた疑問文を正しい語順で表す		
課題及び授業改善の手立て	「言語や文化の知識・理解」の領域において、助動詞を用いた疑問文を正しい語順で表すことについて課題がみられる。”Can you read it?”と、生徒たちが比較的慣れ親しんでいる助動詞 can の疑問文の形で答える場面なのだが、すぐ後の”?”や”No.”に注意を払わず、肯定文の形の“You can read it.”と答えてしまう特徴的な間違いが多かった。文構造については理解しているが、会話の前後の流れをしっかりと捉えて理解するという点において課題がみられる。 ⇒普段の授業で、会話中における表現の適切さや正確さを確認できるような場面を通して、指導することが大切である。		



【英語の学習に関する意識調査 結果 全国との差(ポイント)】

質問 番号	質問内容	よくあてはまる	ややあてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1	外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている。	4.0	-0.4	-1.9	-1.1
2	日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。	4.6	-0.8	-2.1	-1.0
3	関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	3.0	0.9	-2.6	-0.8
4	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	3.0	2.5	-3.2	-1.7
5	趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。	5.5	-1.0	-2.9	-1.0
6	話し手の立場に立って相手の意見や考えを理解するために、英語で聞いたり、質問したり、意見を言ったりしようとしている。	4.9	-1.4	-2.1	-0.8
7	書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。	3.3	4.2	-4.5	-2.2



課題の見られる設問

9 (3) B

<問題の概要>

大切にしているもの (treasure) をテーマに書かれた少し長めの文章を読み、その概要についてまとめた英文の () 内に当てはまる単語を選択肢の中から選んで答える問題。

正答率

山梨県の正答率： 40%以下

分析と課題

- ・山梨県の正答率は全国の正答率を1.2%上回っているが、選択肢のある問題の中で、山梨県・全国共に正答率が最も低い問題となっており、課題が見られる。
- ・ある程度まとまりのある文章を読む際に、ただ漠然と読んでいるため、登場人物や、時系列、キーワード等の必要な情報を読み取ることができていない。
- ・読むことに関する指導においては、生徒と文章の内容に関するやり取りを通して、テーマや読み取るポイントをはっきりさせながら、読ませていくような工夫をする必要がある。

普段の学習で...

- ・文章全体を漠然と読むのではなく、**テーマや読み取るポイントをはっきりさせて読む**ことが大切。そのためには、**教師が生徒たちの理解を深めるために発問の工夫**をする必要がある。

例：環境問題についての文章を読む活動で



Do you know 3Rs?



Yes. Reduce, reuse, and recycle.

What can we do to save the earth?
Today, let's read about that.



① **テーマとポイントを確認してから**読ませる。

What are the keywords in this text?
Share your ideas with your partners.

Environmental
problem...



Save the earth.
Reduce, Reuse

② 生徒とやり取りをしながら、**キーワードを板書等で全体に示して、情報を整理**する。

③ **キーワードや出てきた表現などを使いながら、友だちに文章の内容を英語で説明**させる。



Next, explain the content of this text to your partners.



I think...

The environmental problem is a big problem.
We have many things to do for the earth.

④ 1回目の活動後、**全体で表現などの確認**をする。その後、**ペアを変えてもう一度活動**させる。

授業改善の
POINT

- 文章のテーマや読み取るポイントを確認する。
- 事実を確認する発問、本文から推論する発問、自己に関わる発問など、理解を深めるために教師が発問の工夫をする。
- さらに理解を深めるために文章の内容を英語で友だちに説明するなど、様々な活動を仕組む。(Retelling 活動など)



山梨県公立小中学校 教育課程実施状況調査

授業改善 の **Point'21**

令和3年度 山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査 結果の概要

山梨県総合教育センター

1. 調査の目的

小学校及び中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を調査することで、指導上の課題を明らかにして、今後の学校における学習指導の改善に資する。

2. 調査の対象等

対象学年	校数	受検児童生徒数	調査教科	出題範囲
小学校第6学年	16校	624人	社会	小学校第5学年の学習内容から出題
		624人	理科	
中学校第3学年	9校	626人	社会	中学校第2学年の学習内容から出題
		623人	理科	
		625人	英語	

※該当学年において、児童生徒数の約1割になるよう、無作為抽出した。

3. 調査の日時

区分	小学校	中学校
実施期間	令和3年5月17日（月）から6月4日（金）までの期間 学校ごと実施	
調査教科 (実施時間)	社会・理科（各40分）	社会・理科・英語（各45分）

4. 各教科の主な結果

校種・学年・教科	設問数	県正答率	目標値※	目標値との差	全国正答率
小・6・社会	28問	54.1%	62.9%	-8.8	60.7%
小・6・理科	30問	59.6%	64.3%	-4.7	66.2%
中・3・社会	28問	56.8%	55.4%	+1.4	55.5%
中・3・理科	35問	57.4%	57.4%	0.0	58.1%
中・3・英語A	32問	66.1%	62.8%	+3.3	62.9%
中・3・英語B	32問	67.5%	62.8%	+4.7	62.8%

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合（問題作成業者により設定）

5. 全体的な傾向の分析・考察

- ・小学校社会、理科は、目標値を下回っており、特に知識・技能の定着に課題がある。
- ・中学校社会、理科、英語は、目標値とほぼ同程度であり、おおむね良好な状況である。

6. 授業改善への取組

- ・各学校における具体的な授業改善に生かすために、分析結果を反映させた研修や学校訪問による指導等を行い、各学校の授業改善に向けた取組につなげる。
- ・教員を対象とした学力向上フォーラム（8月20日実施）において、分析結果を公表し、本県児童生徒の各種学力調査における成果と課題、対応策を共有する。
- ・課題のある学習内容について「ピックアップ問題」を作成、配信する。各学校は、「ピックアップ問題」を用いて、調査該当学年を含め全校体制で授業改善や個別の指導に生かす。

教育課程実施状況調査



「知識・技能」の定着に課題が残る

- ・小6社会は、教科全体の正答率が54.1%で、目標値を8.8ポイント下回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が58.9%で、目標値を9.1ポイント下回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
624人	28問	54.1%	62.9%	-8.8	60.7%

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	28	54.1	62.9	-8.8	60.7
		基礎	18	59.3	68.9	-9.6	66.8
		活用	10	44.8	52.0	-7.2	49.6
	領域	国土の自然などの様子	6	48.1	58.3	-10.2	55.6
		農業や水産業	8	52.3	61.9	-9.6	57.6
		工業生産	7	49.6	56.4	-6.8	56.1
		産業と情報の関わり	4	65.8	75.0	-9.2	74.0
		国土の自然環境と国民生活	3	65.7	73.3	-7.6	71.9
	評価の観点	知識・技能	20	58.9	68.0	-9.1	66.9
		思考・判断・表現	8	41.9	50.0	-8.1	45.2
		主体的に学習に取り組む態度	10	44.8	52.0	-7.2	49.6
解答形式	選択式		19	60.8	67.4	-6.6	66.2
	短答式		7	42.2	55.7	-13.5	52.2
	記述式		2	31.4	45.0	-13.6	38.3

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境				
1	選択	○				世界の中の 国土	○					赤道について理解している。	43.6	50.0	53.5
2	選択	○					○					中国の国旗と位置について理解している。	89.4	90.0	88.9
3	選択	○					○					日本の領土の東端について理解している。	42.8	50.0	51.7
4	選択	○		○	○	日本の国土 と人々のく らし	○					日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている。	38.3	50.0	47.6
5	選択		○			日本の国土 と人々のく らし	○					日本の気候の特徴に着目して、瀬戸内海の気候について、適切な雨温図を判断している。	17.8	40.0	24.1
6	短答	○					○					季節風について理解している。	56.7	70.0	68.0

①



小6社会



通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境				
7	短答	○		○	○	日本の農業		○				都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめている。	49.5	60.0	55.1
8	選択	○						○				稲作の工夫や努力について資料を読み取っている。	80.1	85.0	82.5
9	記述		○	○	○	日本の水産業		○				地図に着目して、日本周辺の海流と漁場の関係について捉え、表現している。	24.2	40.0	30.0
10	選択		○	○	○			○				複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断している。	72.3	70.0	77.7
11	選択		○	○	○	日本の食料生産		○				日本の食料自給率に着目して、適切な資料を判断している。	65.7	60.0	56.8
12	短答	○						○				地産地消について理解している。	48.6	60.0	62.1
13	短答	○						○				トレーサビリティについて理解している。	3.4	40.0	16.8
14	選択	○						○				日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取っている。	74.5	80.0	79.8
15	選択	○				自動車をつくる工業			○			自動車工場の作業工程について理解している。	65.7	70.0	68.0
16	選択	○							○			日本の自動車の海外生産台数の変化について、資料を読み取っている。	45.7	50.0	55.1
17	短答		○	○	○				○			会話に着目して、これからの自動車について考え、判断している。	36.7	40.0	39.5
18	選択	○				日本の工業生産			○			日本の工業生産の変化について、資料を読み取っている。	73.7	85.0	84.8
19	短答	○		○	○				○			大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っている。	42.0	50.0	55.4
20	選択	○							○			日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取っている。	55.6	60.0	61.6
21	選択		○	○	○				○			まとめに着目して、国内の製鉄所の立地について考え、適切な分布を判断している。	27.9	40.0	28.3
22	選択	○				情報を生かした産業				○		メディアの特徴を理解している。	88.1	90.0	90.9
23	選択	○				情報を生かした産業				○		情報を伝える側が意識していることについて理解している。	69.6	80.0	80.8

②

③

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の 内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			国 土	農 水	工 業	情 報	環 境				
24	選択	○				情報を生かした産業				○		インターネットを利用するときの注意点について理解している。	66.8	80.0	77.7
25	記述		○	○	○					○		資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現している。	38.6	50.0	46.5
26	選択	○				自然環境と国民生活					○	津波から生活を守る取り組みについて理解している。	85.9	90.0	88.3
27	短答	○									○	天然林と人工林について理解している。	58.8	70.0	68.6
28	選択		○	○	○						○	条例に着目して、環境を守るきまりを捉え、判断している。	52.4	60.0	58.9

④

①～④は課題となる設問を示している。

【課題となる設問】① 通し番号5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	17.8	40.0	-22.2	24.1	-6.3	思	選択
問題の内容	日本の国土と人々の暮らし						
出題のねらい	日本の気候の特徴に着目して、瀬戸内海の気候について、適切な雨温図を判断している。						

【課題となる設問】② 通し番号9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	24.2	40.0	-15.8	30.0	-5.8	思態	記述
問題の内容	日本の水産業						
出題のねらい	地図に着目して、日本周辺の海流と漁場の関係について捉え、表現している。						

【課題となる設問】③ 通し番号21

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	27.9	40.0	-12.1	28.3	-0.4	思態	選択
問題の内容	日本の工業生産						
出題のねらい	まとめに着目して、国内の製鉄所の立地について考え、適切な分布を判断している。						

【課題となる設問】④ 通し番号4

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	66.8	80.0	-13.2	77.7	-10.9	知	選択
問題の内容	情報を生かした産業						
出題のねらい	インターネットを利用するときの注意点について理解している。						



授業改善の POINT

小6 社会



○「知識・技能」の定着に課題（経年的課題）

児童の問題意識に基づく学習問題の解決に向けた学習活動を通して、知識・技能の定着を目指す

依然として「知識・技能の定着」に課題がみられる。単に暗記だけの学習になっていると思われ、判断・表現等とも連動する「使える知識や技能」の習得につながらないと考えられる。児童が疑問をもち、それを追究・解決するために、見通しをもって学習を進めていくことが必要だと考えられる。特定の学年や単元ではなく社会科全体の視点から授業改善のポイントとして4点を示す。

（１）問題解決的な学習の位置付け

- ・児童の疑問を引き出すような教材を工夫していますか？
- ・児童の疑問を引き出すような発問を工夫していますか？
（例）「これは何でしょう？」→「～であるのに、なぜこのようになっているのだろう？」
- ・児童が疑問を解決するために根拠となる資料を活用していますか？

（例）大問２（２）に関連して雨温図の活用について

気候の特色の理解を目指す場面では、雨温図を活用した実践が必要である。

- ①月ごとの気温（℃）を折れ線グラフ、降水量（mm）を棒グラフで表している等の特徴を確認する。
- ②気温の目盛りが一番下が０ではないことを確認する。
- ③月別平均気温と降水量の変化に着目し、季節のサイクルを捉える。
- ④いくつかの都市の雨温図を比べてみることで、気候の特徴を見出す。
- ⑤〇〇地域では、１年を通して降水量が多い（少ない）ことに着目し、なぜ降水量が多い（少ない）のか、その背景に気付く。

（２）学習過程の評価

- ・学習問題に対応したまとめを実施していますか？
→児童自身による振り返り
教師による振り返り

（３）単元等の授業デザイン

- ・単元で身に付けさせたい資質・能力の明確になっていますか？
- ・児童が学習問題を解決するための学習計画を立てていますか？
（例）疑問→学習問題の設定→予想→学習計画

（４）獲得した知識・技能の継続した活用

- ・他の場面でも意識して活用していますか？（横の系統性の理解）
- ・他の学年でも意識して活用していますか？（縦の系統性の理解）

教育課程実施状況調査



「知識・技能」の定着に課題が残る

- ・小6理科は、教科全体の正答率が59.6%で、目標値を4.7ポイント下回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が62.4%で、目標値を6.0ポイント下回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
624人	30問	59.6%	64.3%	-4.7	66.2%

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	30	59.6	64.3	-4.7	66.2
		基礎	21	64.7	70.0	-5.3	72.0
		活用	9	47.7	51.1	-3.4	52.5
	領域	物質・エネルギー	9	48.7	53.3	-4.6	53.6
		生命・地球	21	64.3	69.0	-4.7	71.5
評価の観点	知識・技能		16	62.4	68.4	-6.0	69.8
	思考・判断・表現		14	56.4	59.6	-3.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度		5	45.8	49.0	-3.2	50.0
解答形式	選択式		20	62.0	65.8	-3.8	67.6
	短答式		8	59.4	66.9	-7.5	68.0
	記述式		2	36.6	40.0	-3.4	44.1

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域		出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			物 工	生 地				
1	短答	○				天気の変化		○	日本付近でよく見られる雲の動き方を理解している。	59.1	70.0	71.6
2	選択		○					○	雲の量から天気を判断することができる。	29.6	60.0	57.8
3	選択		○					○	気象衛星の雲画像と雨量情報を結びつけて考えることができる。	92.0	85.0	92.0
4	選択		○					○	雲画像から、翌日の天気を予測できる。	56.6	55.0	57.7
5	選択		○	○	○	植物の発芽と成長		○	仮説を確かめるための対照実験と結果を構想することができる。	50.3	50.0	48.3
6	短答	○						○	種子の発芽に必要な養分をでんぷんと呼ぶことを理解している。	74.8	80.0	84.4
7	選択		○	○	○			○	植物の成長に必要な条件をもとに、ミニトマトを育てるのに適切な場所を推測することができる。	50.2	50.0	50.7
8	選択	○				けんび鏡の使い方		○	けんび鏡の使い方を身に付けている。	57.9	65.0	65.5
9	選択	○						○	けんび鏡の見え方を理解している。	18.1	30.0	26.5



小6理科



通し 番号	解答 形式	観点			活用 観点	問題の内容	領域		出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		知	思	態			物 工	生 地				
10	短答	○				人のたんじょう		○	卵と精子が結び付くことを受精と呼ぶことを理解している。	76.9	80.0	81.1
11	選択	○						○	人の子どもが胎内にいる期間と生まれたときの大きさを理解している。	69.6	80.0	81.2
12	選択		○			魚のたんじょう		○	水槽の中のメダカのおすを指摘できる。	96.5	85.0	96.9
13	選択	○						○	メダカのたまごの育つ順番を理解している。	93.4	85.0	95.1
14	選択	○				植物の花のつくりと実		○	ヘチマの花のつくりを理解している。	53.8	70.0	69.9
15	選択	○						○	アサガオの花粉がつくられる部分を理解している。	53.0	60.0	59.2
16	記述		○	○	○			○	ヘチマとアサガオで、実験の結果に違いがあった理由を説明することができる。	42.0	50.0	54.9
17	短答	○				流れる水のはたらき		○	侵食について理解している。	62.5	75.0	79.0
18	選択	○						○	大きくて角張った石が見られる場所を理解している。	96.2	85.0	95.0
19	選択		○					○	川の増水により、土地のようすが変わることがあることを指摘できる。	86.2	85.0	89.2
20	選択	○				物のとけ方	○		物をとくす前後で全体の重さは変わらないことを理解している。	82.4	80.0	83.0
21	選択	○					○		水溶液は均一になることを理解している。	16.0	30.0	21.7
22	短答		○		○		○		グラフを読み取り、食塩水とミョウバンの水溶液を判断する方法を推測することができる。	49.8	50.0	49.2
23	選択	○				電流のはたらき	○		電磁石の極の性質について理解している。	53.0	60.0	59.5
24	短答		○		○		○		電磁石の力を強くする条件を調べる対照実験の誤りを指摘できる。	40.9	55.0	54.8
25	短答	○			○		○		電流の大きさを大きくすると、電磁石の力が強くなることを理解している。	55.8	60.0	61.2
26	選択	○				天気の変化		○	台風の進み方を理解している。	76.0	85.0	83.1
27	短答		○	○				○	台風による被害が台風のどのような特徴によるものか推測することができる。	55.1	65.0	62.9
28	選択		○		○	ふりこのきまり	○		メトロノームのおもりを上下に動かすことが、ふりこの何の条件を変えることか指摘できる。	74.2	75.0	79.2
29	選択		○		○		○		予想が正しいとした場合に得られる結果を推測することができる。	34.6	40.0	40.9
30	記述		○	○	○		○		実験の結果から、メトロノームのテンポを速くする方法を判断し、その理由を説明することができる。	31.3	30.0	33.2

③

④

①～④は課題となる設問を示している。

教育課程実施状況調査



【課題となる設問】① 通し番号 2

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	29.6	60.0	-30.4	57.8	-28.2	思	選択
問題の内容	天気の変化						
出題のねらい	雲の量から天気を判断することができる。						

【課題となる設問】② 通し番号 9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	18.1	30.0	-11.9	26.5	-8.4	知	選択
問題の内容	けんび鏡の使い方						
出題のねらい	けんび鏡の見え方を理解している。						

【課題となる設問】③ 通し番号 14

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	53.8	70.0	-16.2	69.9	-16.1	知	選択
問題の内容	植物の花のつくりと実						
出題のねらい	へチマの花のつくりを理解している。						

【課題となる設問】④ 通し番号 24

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	40.9	55.0	-14.1	54.8	13.9	思	短答
問題の内容	電流のはたらき						
出題のねらい	電磁石の力を強くする条件を調べる対照実験の誤りを指摘できる。						



授業改善の POINT

小6理科



観察、実験器具の操作に関することや、実験結果の考察を考えたり記述したりすることに経年的な課題がみられる。

これらの課題を踏まえ以下に授業改善のポイントを示す。

(1) 目的に応じて観察、実験器具を操作することができるような工夫をする

- ・観察、実験器具の操作の目的を明確にする。
- ・器具の操作の手順の理解だけでなく、操作の意味を捉える授業展開をする。
- ・協働的な学習の中で、観察、実験器具の誤った操作に気づき、適切に操作する方法が行えるようにする。
- ・観察、実験の充実を図るため、実験器具等の配置を児童に周知しておき、児童が活動しやすいようにする。

(2) 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することを重視する

- ・実験結果を表に整理する際、定量的に表せるようにする。
- ・考察においては、実験結果という事実と解釈の両方を整理して説明する。

(3) 実験の見通しを持ち、解決の方向性について構想し、より妥当な考えへ改善できるような工夫をする

- ・予想や仮説を発想して自分の考えを明確にするために、図などに表現できるようにする。
- ・実験の前に自分の考えを持って話し合う場面を設定し、他者の予想の内容を把握する場面を設ける。
- ・自分の考えと異なる他者の予想も把握することで実験の見通しを持てるようにする。
- ・実験結果の見通しと実験結果を比較し、予想と実験結果の「一致」や「不一致」を明確にすることで、より妥当な考えに改善できるようにする。「不一致」の場合は予想や実験方法を見直し、より妥当な考えに改善できるようにする。

(4) 実験において「変える条件」と「変えない条件」を整理して実験の計画をたてる工夫をする

- ・その実験で扱う量にはどのようなものがあるか考えたり、整理したりする場面を設ける。
- ・実験を構想する際、「変える条件」と「変えない条件」について考える。
- ・条件を変えた場合どのようなようになるか予想する。

(5) 自然現象や、自然事象はまず実物をよく観察し、共通点や相違点について気付けるような工夫をする

- ・観察のスケッチにおいては、共通点や相違点を意識できるようにする。
- ・観察記録を黒板にはったり、拡大して提示したりして、各自が複数の観察記録を比較する活動を通して、共通性や相違点に気付けるようにする。
- ・実物を見ることを基本とし、より多角的に自然の事物・現象を捉えるためにICTを有効に活用する。

教育課程実施状況調査



「社会的な思考・判断・表現」が良好である

- ・中3社会科は、教科全体の正答率が56.8%で、目標値を1.4ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも「社会的な思考・判断・表現」が52.5%で、目標値を1.7ポイント上回った。

対称児童数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
626人	28問	56.8%	55.4%	1.4	55.5%

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	28	56.8	55.4	1.4	55.5
		基礎	21	60.2	58.8	1.4	59.0
		活用	7	46.6	45.0	1.6	44.9
	領域	世界と比べた日本の地理的特色	7	69.3	65.0	4.3	67.0
		日本の諸地域	4	54.2	55.0	-0.8	53.9
		身近な地域の調査	2	46.1	50.0	-3.9	49.8
		近世の日本	10	57.7	56.0	1.7	56.7
		近代の日本と世界	5	44.1	43.0	1.1	40.7
評価の観点	社会的現象への関心・意欲・態度	7	47.9	46.4	1.5	47.2	
	社会的な思考・判断・表現	10	52.5	50.8	1.7	51.1	
	資料活用の技能	19	56.7	55.8	0.9	56.5	
	社会的事象についての知識・理解	27	57.4	56.0	1.4	55.6	
解答形式	選択式	20	56.6	55.5	1.1	55.5	
	短答式	6	57.8	55.8	2.0	56.5	
	記述式	2	56.5	52.5	4.0	52.3	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			目 特	日 諸	身 調	近 世	近 代				
1	選択			○	◎		世界と比べた日本の地 域的的特色	○					環太平洋造山帯の特色について理解している。	56.7	65.0	60.2
2	短答			○	◎			○					季節風について理解している。	93.4	85.0	90.9
3	選択			○	◎			○					三角州について理解している。	65.2	55.0	54.9
4	選択		◎	○	○			○					世界各地の気候について、雨温図を判断することができる。	83.1	75.0	82.3
5	選択	○		◎				○					情報通信網の発達について、複数の資料をもとに把握することができる。	60.2	55.0	61.4



中3社会



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			日 特	日 諸	身 調	近 世	近 代				
6	記述	○	◎	○	○	表	世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の産業について、産 業の分類に関する理解を もとに、複数の資料を読 み取り、表現することが できる。	72.4	65.0	66.8
7	短答			○	◎		日本の諸地域		○				北海道地方や九州地方の 涼しい気候で発展した酪 農について理解している。	51.0	50.0	51.6
8	選択		○	◎	○				○				日本の工業地帯・工業地 域の工業生産について、 資料をもとに把握するこ とができる。	69.3	75.0	72.1
9	選択				◎				○				東北地方の地形や産業、 行事について理解してい る。	57.8	55.0	52.9
10	選択		◎	○	○		世界と比べた日本 の地域的特色	○					日本の人口と過疎・過密 問題について、人口ピラ ミッドをもとに考察する ことができる。	54.2	55.0	52.4
11	短答			◎	○		身近な地域の調 査			○			縮尺に着目して地形図を 読み取ることができる。	43.0	45.0	45.6
12	選択			◎	○					○			地形図を読み取ることが できる。	49.2	55.0	54.0
13	選択			○	◎		ヨーロッパ人との 出会いと全国 統一				○		織田信長と豊臣秀吉の業 績について理解してい る。	20.0	30.0	18.4
14	選択		◎	○	○	思					○		織田信長と豊臣秀吉によ る政策について、資料を もとに判断することがで きる。	51.3	45.0	45.5
15	短答				◎						○		織田信長の統一事業につ いて理解している。	63.3	60.0	60.3
16	短答				◎						○			71.6	65.0	68.7
17	選択			◎	○		江戸時代				○		江戸幕府による大名統制 について、資料を読み取 ることができる。	83.7	75.0	82.6
18	選択	○	◎	○	○	思					○		江戸時代の貨幣経済の広 がりについて、資料をも とに判断することができる。	36.7	40.0	41.9
19	選択				◎						○		江戸時代の文化について 理解している。	91.2	80.0	88.7
20	選択				◎						○		江戸幕府による政治改革 について理解している。	57.7	60.0	61.4
21	選択				◎						○		尊王攘夷運動の高まりに おける、長州藩の外国船 砲撃について理解してい る。	61.5	65.0	61.3
22	選択				◎		明治時代					○	明治政府による改革の流 れについて理解してい る。	52.6	50.0	49.6

①

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域					出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			日 特	日 諸	身 調	近 世	近 代				
23	短答				◎		明治時代					○	地租改正について理解している。	24.6	30.0	21.8
24	選択				◎		明治時代					○	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。	56.1	50.0	48.3
25	選択	○	◎	○	○	思						○	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。	28.6	35.0	29.8
26	記述	○	◎	○	○	表	ヨーロッパ人との出会いと全国統一				○		織田信長の統一事業について資料をもとに考察し、表現することができる。	40.6	40.0	37.8
27	選択	○	◎	○	○	思	明治時代					○	明治政府による改革について、複数の資料をもとに判断することができる。	58.5	50.0	54.0
28	選択	○	◎	○	○	思	日本の諸地域		○				北海道地方の観光業に関する課題について、複数の資料をもとに判断することができる。	38.5	40.0	38.8

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号3

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	65.2	55.0	10.2	54.9	10.3	知	選択
問題の内容	世界と比べた日本の地域的特色						
出題のねらい	三角州について理解している。						

【目標値を上回る設問】② 通し番号24

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	56.1	50.0	6.1	48.3	7.8	知	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	国会開設の勅諭と政党の結成について理解している。						

【課題となる設問】① 通し番号12

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	49.2	55.0	-5.8	54.0	-4.8	技	選択
問題の内容	身近な地域の調査						
出題のねらい	地形図を読み取ることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号25

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	28.6	35.0	-6.4	29.8	-1.2	思	選択
問題の内容	明治時代						
出題のねらい	明治政府による改革について、資料をもとに判断することができる。						



授業改善の POINT

中3社会



- 「社会的な思考力・判断力・表現力」を育成するための授業改善の継続
- 学び方の習得を目指した調査活動の位置付け

全体として全国平均を上回っており、用語等を答える設問については、いずれの分野・領域においても比較的高い正答率を示している。用語等の習得に向けた各校での取組の成果だといえる。また、経年的な課題であった「社会的な思考・判断・表現」に関する問題についても目標値を上回っている。社会科の「見方・考え方」を働かせた読解力の育成を目指すとともに、用語や事象について単なる言葉として捉えるのではなく、その背景や因果関係を理解した上で、その言葉がもつ「本質」を理解できるようにすることを意識した授業改善の成果と考えられる。このような授業改善の視点を継続していくことが必要である。一方、改善はみられるものの、資料をもとに判断する設問については課題とみることができる。また、身近な地域の調査等、調査方法に関する設問についても課題と言える。これらを踏まえ、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

（１）実践の中への「発問」の位置付け

- ・身に付けさせたい資質・能力の育成につながる発問になっていますか？
- ・ねらいにせまるために発問が構成されていますか？

（２）資料を使って考えたり、説明したりする活動の設定

- ・「発問」を追究する場面で根拠となる資料を継続的に活用していますか？
 - ・生徒が必要感をもつことができるような資料提示の工夫をしていますか？
 - ・調査活動など生徒が自力解決に挑戦できるような場面を設定していますか？
- また、調査方法等の「学び方」に関する指導を意識していますか？

（例）大問３（２）に関連して

地形図の読み取りでは、縮尺、方位、等高線、地図記号の４点を理解していることが必要となる。

- ①縮尺は実際の距離を縮小した割合であること。
- ②方位は、地形図では上が北になり、下が南になること。
- ③等高線は高さの等しい地点を結んだ線で、間隔によって傾斜を読み取ることができること。
- ④地図記号は、建物や土地利用、交通路を表すものであること。

このような技能を繰り返し活用する場面を意図的・計画的に設定していく必要がある。

（３）単元等のまとまりを見通した授業デザイン

- ・単元等で身に付けさせたい資質・能力は明確になっていますか？
- ・生徒が問いを追究できるような単元等の計画になっていますか？

教育課程実施状況調査



「観察・実験の技能」の定着に課題が残る

- ・中3理科は、教科全体の正答率が57.4%で、目標値と同等であった。
- ・観点別に正答率を見ると、「自然事象への関心・意欲・態度」が53.0%で、目標値を3.0ポイント上回った。一方、「観察・実験の技能」が61.7%で、目標値を3.3ポイント下回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
623人	35問	57.4%	57.4%	0.0	58.1%

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	35	57.4	57.4	0.0	58.1
		基礎	25	59.1	60.0	-0.9	60.3
		活用	10	53.3	51.0	2.3	52.5
	領域	エネルギー	9	56.2	58.3	-2.1	54.9
		粒子	9	55.7	53.9	1.8	55.0
		生命	10	62.9	61.0	1.9	64.2
		地球	7	53.4	55.7	-2.3	57.3
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度		5	53.0	50.0	3.0	51.3
	科学的な思考・表現		18	54.6	53.6	1.0	53.1
	観察・実験の技能		4	61.7	65.0	-3.3	66.1
	自然現象についての知識・理解		14	60.2	60.2	0.0	62.5
解答形式	選択式		25	58.9	60.0	-1.1	60.1
	短答式		7	57.9	55.7	2.2	58.2
	記述式		3	43.5	40.0	3.5	41.4

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球				
1	選択	○		○			物質の成り立ち		○			炭酸水素ナトリウムを分解する実験を、安全に行うことができる。	62.0	65.0	66.2
2	選択					○			○			炭酸水素ナトリウムの分解前と分解後の、物質の性質を比べられる。	47.5	50.0	50.7
3	記述		○						○			炭酸水素ナトリウムを加熱したときに二酸化炭素が発生することを利用していることを説明できる。	37.9	40.0	35.8
4	短答					○	化学変化		○			熱を周囲に出しながら起こる反応を、「発熱反応」ということを理解している。	54.9	50.0	54.5
5	選択		○						○			加熱前の物質と加熱後の物質にうすい塩酸を加えたときの反応を考えることができる。	49.9	50.0	53.4



中3理科



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球					
6	選択	○	○			思	化学変化		○			鉄と硫黄の反応について正しくない考察をしている人を指摘できる。	78.2	65.0	71.2	①
7	選択		○				化学変化と物質 の質量		○			物質を単体、化合物に分類することができる。	77.7	70.0	72.0	①
8	選択		○			思			○			化学変化に関する物質の質量変化の規則性から、加熱が不十分だった結果を指摘できる。	28.4	40.0	30.4	
9	短答		○		○	思			○			化学変化における質量の保存について考察することができる。	64.7	55.0	61.1	
10	選択			○			生物と細胞			○		核を染色する染色液について理解している。	76.6	80.0	79.5	②
11	選択				○					○		動物の細胞には見られず、植物の細胞だけに見られるつくりを理解している。	49.4	50.0	52.5	
12	選択				○		動物のからだの つくりとはたら き			○		外界からの刺激に対する信号の伝わり方を理解している。	76.4	75.0	76.3	
13	選択				○					○		中枢神経について理解している。	48.0	50.0	50.1	②
14	選択		○				動物の分類			○		セキツイ動物を分類する特徴について考えることができる。	82.7	80.0	79.8	
15	選択				○					○		ハ虫類に分類される動物を理解している。	61.8	65.0	64.6	
16	選択				○					○		無セキツイ動物について理解している。	61.5	60.0	64.4	
17	選択		○				電流の性質	○				並列回路を流れる電流の大きさについて考えることができる。	73.2	65.0	68.5	②
18	選択		○					○				直列回路に加わる電圧、流れる電流について考えることができる。	14.9	40.0	11.9	
19	選択				○		電流の性質	○				電力と電圧から電流を求める式を理解している。	66.5	65.0	63.9	
20	短答	○	○			思		○				実験の結果から電気ポット内の水が沸騰するまでの時間を推測することができる。	32.1	40.0	31.0	②
21	選択		○				電流の正体	○				静電気の性質から、実験の結果を考えることができる。	63.9	65.0	63.4	
22	短答				○			○				摩擦によって生じる電気を、「静電気」ということを理解している。	86.7	80.0	91.6	
23	選択			○			前線の通過と天 気の変化				○	天気図記号から、天気と風向を読みとることができる。	67.6	70.0	74.5	②
24	選択				○						○	低気圧からのびる前線について理解している。	57.6	65.0	65.3	
25	選択				○						○	寒冷前線について理解している。	61.8	65.0	63.8	
26	選択			○			大気中の水蒸気 の変化				○	気温、湿度、飽和水蒸気量から露点を求められる。	40.8	45.0	44.3	

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域				出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	思	技	知			エ ネ	粒 子	生 命	地 球				
27	選択		○				大気中の水蒸気 の変化				○	水蒸気の結露現象が起こりや すい条件を考えられる。	42.2	45.0	44.7
28	選択		○				日本の気象				○	気圧配置と風向の関係を理解 している。	37.6	40.0	39.4
29	選択		○			思					○	日本の冬に見られる特徴的な 気象について考えることがで きる。	66.0	60.0	69.4
30	短答		○				動物のからだの つくりとはたら き			○		表面積のちがいをモデルを使 って考えることができる。	58.7	55.0	54.4
31	記述	○	○			表				○		小腸の表面積が広くなること の利点を説明できる。	62.4	40.0	64.5
32	短答				○	思				○		肺で表面積が広がっている つくりを指摘し、交換してい る気体を考えることができる。	51.2	55.0	56.0
33	選択		○			思	電流と磁界	○				電磁石のまわりの磁界を考え ることができる。	81.5	75.0	81.3
34	短答				○			○				コイルに磁石を近づけたとき に生じる電流を、「誘導電流」 ということを理解している。	57.0	55.0	58.9
35	記述	○	○			表		○				IC チップのコイルに電流が 流れた理由を説明できる。	30.2	40.0	23.8

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を表している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号6

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	78.2	65.0	13.2	71.2	7.0	思	選択
問題の内容	化学変化						
出題のねらい	鉄と硫黄の反応について正しくない考察をしている人を指摘できる。						

【目標値を上回る設問】② 通し番号17

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	73.2	65.0	8.2	68.5	4.7	思	選択
問題の内容	電流の性質						
出題のねらい	並列回路を流れる電流の大きさについて考えることができる。						

【課題となる設問】① 通し番号8

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	28.4	40.0	-11.6	30.4	-2.0	思	選択
問題の内容	化学変化と物質の質量						
出題のねらい	化学変化に関係する物質の質量変化の規則性から、加熱が不十分だった結果を指摘で きる。						



【課題となる設問】② 通し番号24

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	57.6	65.0	-7.4	65.3	-7.7	知	選択
問題の内容	前線の通過と天気の変化						
出題のねらい	低気圧からのびる前線について理解している。						

授業改善の POINT

全般的に基本的な知識については身に付いている。しかし、科学的な思考・表現や実験観察の技能を問う問題に課題がみられる。特に知識を活用し、説明する場面や実験の結果を分析する際、より妥当な考えをつくりだすために考察し、その内容を記述することに課題がみられる。領域別では、地球の「天気の変化」に関する知識・技能に経年的な課題がある。

以上の課題を踏まえ以下に授業改善のポイントを示す。

□問題解決の過程における言語活動の充実を図る

- ・仮説を立てる際、観察、実験などの検証方法を討論しながら、考えが深め合えるようにする。
- ・予想や仮説、結果を考察する場面では、個で考える時間、グループで考える時間を確保する。
- ・グループで検討するときは、自分の考えを伝え、他者の考えを聞くことにより、より妥当な考えがつくりだせるようにする。
- ・予想と結果が一致しない場合は、その原因や解決の方法を考え、話し合う場面を設定する。
- ・実験結果を基に分析して考察したことを、科学的根拠を踏まえて記述できるようにする。

□科学技術と人間の生活のつながりについて考え、理科の知識・技能を活用し、科学的に探究する場面の設定をする

- ・既習の科学的な知識が、日常生活の場面でどのように活用されているか考える場面や、科学的に考えて新たな価値を見出そうとする場面を設ける。
- ・分野や領域を横断する課題を把握して、教材として取り上げる。
- ・科学技術が地球環境や生物にどのような影響を与えるかという視点がもてるように工夫する。

□理科の見方・考え方を働かせるような教材の提示と、多面的に考える場面を設定する

- ・複数の資料をもとにして、考えられることを話し合うなどの場面を設定する。
- ・理科の見方・考え方を働かせるような発問を工夫する。
- ・理科の見方・考え方を働かせるようにICTを効果的に活用する。

□観察、実験の結果の見通しがもてるような活動の工夫をする

- ・観察、実験器具の操作の目的を明確にする。
- ・器具の操作の手順の理解だけでなく、操作の意味を捉える授業展開をする。
- ・観察、実験の目的を明確化し、何を調べているのか、調べたらどうなるか、という見通しがもてるようにする。

教育課程実施状況調査



「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Aは、教科全体の正答率が66.1%で、目標値を3.3ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語理解の能力」が69.4%で、目標値を3.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	66.1%	62.8%	3.3	62.9%

※英語A英語B受験者合計

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	66.1	62.8	3.3	62.9
		基礎	20	70.8	67.5	3.3	67.8
		活用	12	58.2	55.0	3.2	54.8
	領域	聞くこと	9	71.9	70.0	1.9	70.0
		読むこと	14	66.1	62.1	4.0	63.4
		書くこと	9	60.2	56.7	3.5	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		14	63.3	61.1	2.2	59.3
	外国語表現の能力		11	53.3	50.6	2.7	47.6
	外国語理解の能力		17	69.4	65.9	3.5	67.3
	言語や文化についての知識・理解		10	69.5	66.5	3.0	66.9
解答形式	選択式		21	71.4	67.9	3.5	69.2
	短答式		5	70.8	66.0	4.8	68.2
	記述式		6	43.4	42.5	0.9	36.7

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
1	選択	○		◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	76.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	97.1	90.0	96.1
3	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	68.5	70.0	70.8
4	選択	○		◎			リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(見せてくれませんかとたずねられて)	70.3	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)	84.3	75.0	72.4 ①



中3英語 A



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
6	選択	○		◎			リスニング(対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(だれのギターかとたずねられて)	85.1	80.0	83.6
7	選択	○		◎		思	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることができる。	82.3	85.0	79.5
8	選択	○		◎		思	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることができる。	62.1	60.0	66.9
9	記述	○	○	◎		表	リスニング(対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。	21.3	30.0	19.5
10	選択				◎		語形・語法の知識・理解		○		語形・語法を理解することができる。(be 動詞の過去形)	51.2	50.0	48.2
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(不定詞の副詞的用法)	56.8	55.0	51.5
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(must の否定文)	53.0	55.0	51.2
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(more を使った比較級)	75.6	75.0	72.3
14	選択				◎		語彙の知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取ることができる。	71.6	70.0	68.5
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取ることができる。	84.0	75.0	82.1
16	選択			◎		思	さまざまな英文の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	91.4	80.0	90.9
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	86.9	75.0	84.5
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切な語を判断することができる。	64.1	60.0	59.5
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の適切な発言を判断することができる。	61.0	55.0	61.7
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握することができる。	63.4	65.0	63.4
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することができる。	53.4	50.0	49.6
22	選択			◎					○			61.9	60.0	58.6
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英文を完成させることができる。	50.9	45.0	45.9
24	短答		○		◎		単語の並べかえによる英作文			○	英文を正しい語順で書くことができる。(have to ～ の否定文)	79.8	75.0	73.2
25	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(動名詞の疑問文)	84.9	75.0	77.7
26	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(be going to の疑問文)	89.1	80.0	88.7
27	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(look (SVC) の否定文)	49.2	55.0	55.7
28	記述	○	◎			表	場面に応じて書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(when を使ってときをたずねる)	25.9	30.0	21.2

①

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
29	記述	○	◎			表	場面に応じて書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(why を使って理由をたずねる)	21.4	30.0	14.2	②
30	記述	○	◎				3 文以上の英作文			○	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった 3 文以上の英文を書くことができる。	60.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○		70.2	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○		61.4	50.0	51.3	②

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号 5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	84.3	75.0	9.3	72.4	11.9	理	選択
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(通学手段をたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 通し番号 32 (テーマに沿って、3 文以上で書かれている。)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	61.4	50.0	11.4	51.3	10.1	表	記述
問題の内容	3 文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった 3 文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 通し番号 9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.3	30.0	-8.7	19.5	1.8	理	記述
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号 29

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.4	30.0	-8.6	14.2	7.2	表	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(why を使って理由をたずねる)						



授業改善の POINT

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面での授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。また経年的に課題のみられる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がみられた。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用しながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

（１）日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

（２）教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

（３）書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。

教育課程実施状況調査



「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Bは、教科全体の正答率が67.5%で、目標値を4.7ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語表現の能力」が57.1%で、目標値を6.5ポイント上回った。また、「外国語理解の能力」において、70.4%と最も正答率が高く、目標値を4.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	67.5%	62.8%	4.7	62.8%

※英語A英語B受験者合計

種別			設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	67.5	62.8	4.7	62.8
		基礎	20	71.6	67.5	4.1	67.6
		活用	12	60.7	55.0	5.7	54.8
	領域	聞くこと	9	73.8	70.0	3.8	69.5
		読むこと	14	65.6	62.1	3.5	63.4
		書くこと	9	64.1	56.7	7.4	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		14	66.2	61.1	5.1	59.0
	外国語表現の能力		11	57.1	50.6	6.5	47.6
	外国語理解の能力		17	70.4	65.9	4.5	67.0
	言語や文化についての知識・理解		10	70.1	66.5	3.6	66.9
解答形式	選択式		21	71.8	67.9	3.9	69.0
	短答式		5	72.9	66.0	6.9	68.2
	記述式		6	47.9	42.5	5.4	36.7

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
1	選択	○		◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	84.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	86.2	90.0	91.9
3	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	71.3	70.0	70.8
4	選択	○		◎			リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(見せてくれませんかとたずねられて)	73.6	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)	77.6	75.0	72.4



中3英語 B



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
6	選択	○		◎			リスニング（対話文の応答）	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。（だれのギターかとたずねられて）	87.9	80.0	83.6	①
7	選択	○		◎		思	リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	○			英文の概要を聞き取ることができる。	85.1	85.0	79.5	
8	選択	○		◎		思	リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	○			英文の要点を聞き取ることができる。	72.4	60.0	66.9	
9	記述	○	○	◎		表	リスニング（対話文の応答）	○			対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。	25.3	30.0	19.5	①
10	選択				◎		語形・語法の知識・理解		○		語形・語法を理解することができる。（be 動詞の過去形）	45.4	50.0	48.2	
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。（不定詞の副詞的用法）	55.2	55.0	51.5	
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。（must の否定文）	55.2	55.0	51.2	
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。（more を使った比較級）	71.3	75.0	72.3	
14	選択				◎		語彙の知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取ることができる。	74.7	70.0	68.5	
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取ることができる。	84.5	75.0	82.1	
16	選択			◎		思	さまざまな英文の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	90.8	80.0	90.9	
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	85.6	75.0	84.5	
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切な語を判断することができる。	59.2	60.0	59.5	
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の適切な発言を判断することができる。	61.5	55.0	61.7	
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握することができる。	60.9	65.0	63.4	
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することができる。	60.3	50.0	49.6	
22	選択			◎					○			64.4	60.0	58.6	
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英文を完成させることができる。	49.4	45.0	45.9	
24	短答		○		◎		単語の並べかえによる英作文			○	英文を正しい語順で書くことができる。（have to ～ の否定文）	83.9	75.0	73.2	
25	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。（動名詞の疑問文）	90.8	75.0	77.7	
26	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。（be going to の疑問文）	94.3	80.0	88.7	
27	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。（look (SVC) の否定文）	46.0	55.0	55.7	
28	記述	○	◎			表	場面に応じて書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。（when を使ってときをたずねる）	27.6	30.0	21.2	

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
29	記述	○	◎			表	場面に応じて書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(why を使って理由をたずねる)	22.4	30.0	14.2	②
30	記述	○	◎				3 文以上の英作文			○	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった 3 文以上の英文を書くことができる。	63.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○		78.4	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○		70.7	50.0	51.3	②

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号 6

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	87.9	80.0	7.9	83.6	4.3	理	選択
問題の内容	リスニング（対話文の応答）						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（だれのギターかとたずねられて）						

【目標値を上回る設問】② 通し番号 32（テーマにそって、3 文以上で書かれている。）

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	70.7	50.0	20.7	51.3	19.4	表	記述
問題の内容	3 文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった 3 文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 通し番号 9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	25.3	30.0	-4.7	19.5	5.8	理	記述
問題の内容	リスニング（対話文の応答）						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号 29

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	22.4	30.0	-7.6	14.2	8.2	表	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(why を使って理由をたずねる)						



授業改善の POINT

中3英語 B



○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語の活動から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面における授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。「外国語表現」において高い正答率を示しているのも、小学校の段階から英語を使って話す場면을多く経験し、英語で表現する活動に慣れつつあることが成果として表れて来ているといえる。また経年的に課題の見られる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がある。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用させながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。



センターから

授業改善 の **Point'21**

①総合教育センターホームページ

山梨県総合教育センター

Chromeで閲覧の際に、アドレスバーに「保護されていません」と表示される場合がありますが、本サイトでは、個人情報の送信を求めることはありませんので、安全に閲覧できます。



山梨県総合教育センター

YAMANASHI PREFECTURAL EDUCATION CENTER



トップページ

総合案内

研修

調査・研究

授業支援

Yel を 視聴しよう!

②やまなしeラーニング

サービス

ピーチウェア

利用情報

コンテンツデータベース

検索トップ

カテゴリ

やまなしeラーニング

コンテンツ一覧表

Intra Net

図書利用要項

③授業改善



授業改善

登録件数: 18件

* 各種学力調査を踏まえた授業改善に向けての
説明動画のコンテンツです。

オススメ → 採点の仕方

オススメ → 授業改善のための説明動画

校内研において
職員みんなで
視聴する

個人の
端末で視聴
する

QRコードは
こちらから



* 視聴の際は、ユーザー名とパスワードが必要です。

令和3年度 山梨県総合教育センター研究協力校拡大校内研究会について（一次案内）

平素より本センターの運営に、格別の御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、当センターでは研究協力校と連携を図り、山梨大学教育実践総合センターの御指導・御協力を仰ぎながら、「授業・学校づくり」「情報教育」「教育相談」「特別支援教育」に関する研究を進めております。

今年度は下記の研究協力校において、拡大校内研究会を開催し、関係各位の御指導をいただき、研究をさらに深めて参りたいと存じます。つきましては、御承知おきいただくとともに、貴所属職員への周知についてお取り計らいくださいますよう、お願い申し上げます。

なお、学校ごとの内容、申込み方法及び感染症対策の留意事項等の詳細は、開催1か月前に配付する二次案内でお知らせいたします。

- 1 南アルプス市立白根御勅使中学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和3年10月26日（火）14:45～17:00（受付14:25～）
②内 容 研究授業（1年数学、2年理科） 研究会
- 2 山梨県立甲府東高等学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和3年10月26日（火）14:35～16:55（受付14:15～）
②内 容 研究授業（1年数学、国語 2年英語、公民） 研究会
- 3 富士川町立鯉沢小学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和3年10月27日（水）14:00～16:30（受付13:40～）
②内 容 研究授業（4年算数） 研究会
- 4 笛吹市立石和南小学校 「授業・学校づくり」（1年次）
①日 時 令和3年11月1日（月）13:50～16:45（受付13:30～）
②内 容 開催行事 研究授業（6年算数） 研究会
- 5 笛吹市立一宮南小学校 「授業・学校づくり」（2年次）
①日 時 令和3年11月22日（月）14:00～16:30（受付13:40～）
②内 容 研究授業（3年国語） 研究会
- 6 上野原市立島田小学校 「情報教育に関する研究」（1年次）
①日 時 令和3年11月24日（水）13:45～16:55（受付13:25～）
②内 容 研究授業（4年国語） 研究会

*二次案内は、開催1か月前を目安に、総合教育センターホームページに掲載いたします。

*総合教育センターホームページより申し込みができます。

**今すぐ
ダウンロード！**



本冊子は、山梨県総合教育センターホームページよりダウンロードできます。 [http: //www.ypec.ed.jp](http://www.ypec.ed.jp)